

『集落元気づくり寄合』の紹介

～集落支援を志す人のために～

平成23年2月

はじめに

九州圏全域が一体となって発展していくべく『九州圏広域地方計画』が平成21年8月に策定された。その策定の過程において、九州地方整備局では平成19年度より3年にわたり、自治体の協力の下、小規模化・高齢化が進行する集落の実態や、集落への支援のあり方について調査・検討を進めてきた。

調査・検討の結果、自治体が維持困難と認識する集落が中山間地域や離島を中心に550集落確認され、その対応には、『支援のあり方がわからない』、『担い手が不足している』等の課題を抱えていることが把握できた。

本冊子は、これらの課題を受け、集落支援のモデルケースとして平成20年度～21年度にかけて4つの集落を対象に実施してきた『集落元気づくり寄合(ワークショップ)』の手順を紹介するものである。

この『集落元気づくり寄合』は、学識者等から構成される『九州圏における地域の存続・再生に関する調査検討委員会』の助言を頂きながら、集落住民の自発性の引き出し方や、担い手不足への対応に留意しながら実施してきたものである。

本冊子が、集落への支援に向き合う行政職員、更には集落支援への参画が期待されるNPOやボランティア団体、大学関係者(学識者や学生等)等のみなさまに活用され、集落元気づくりの一助となることを願うものである。

平成23年2月 九州圏における地域の存続・再生に関する調査検討委員会 事務局

九州圏における地域の
存続・再生に関する調査

平成19年度から21年度において実施してきた調査の詳細は下記のサイトに掲載しております。

<http://www.qsr.mlit.go.jp/chiiki/koiki/index.html>

目次

1.	「集落元気づくり」とは？	P1
2.	なぜ「集落」単位の支援が必要なのか？	P1
3.	「集落元気づくり」のプロセスと課題	P2
4.	「集落元気づくり寄合」の進め方	P3

【参考資料】

1)	集落の分類と支援方策	P13
2)	「集落代表者等アンケート」の例	P15
3)	集落元気づくり寄合の例	P18
4)	先行事例	P22
5)	集落モニタリング	P25
6)	市町村・集落代表者アンケートに見る九州圏の 小規模・高齢化集落の現状	P28
7)	HP等で確認できる各県独自の集落支援のとりくみ例	P30

1. 『集落元気づくり』とは？

■集落活性化の成功事例に見るいくつかの共通点

- 1) 外部からの支援がきっかけで、集落が元気になる取組が始まる。
取組をとおして、集落のコミュニティが活性化
- 2) 取組の多くは、『**資源の活用**』、『**不安の解消**』に関する事項
- 3) 取組が継続して実行されるには、地域住民が主体的に取り組むことが必要

■本調査では、集落の『**資源の活用**』、『**不安の解消**』を図る取組みを『**集落元気づくり**』、取組みのために行う寄合（ワークショップ）を『**集落元気づくり寄合**』と定義。
集落の自発性を促すことがねらい

珍しいもの(祭り生物、名水、遺跡)を活用して都市住民と交流したい

農地や山林の荒廃を食い止めたい

自分の家の自慢の品を持ち寄って朝市を定期的を開きたい

空き家を活用して他の地域の人たちに自分たちの暮らしを体験させたい

昔やっていた祭り・芸能を出て行った人たちも呼んで残していきたい



2. なぜ『集落』単位の支援が必要なのか？

■必要となる集落支援のしくみ

・高齢化・小規模化の進行で、地域コミュニティが急激に衰退してしまう集落が存在。そのため、国土・地域保全管理上の問題も顕在化。これら集落の問題解決に向けた取組を支援するしくみが必要。集落で住んでいる人の暮らしの安定・安心の確保は自治体の重要な役割であるが、今後はボランティアやNPO等、様々な主体による支援にも期待される。

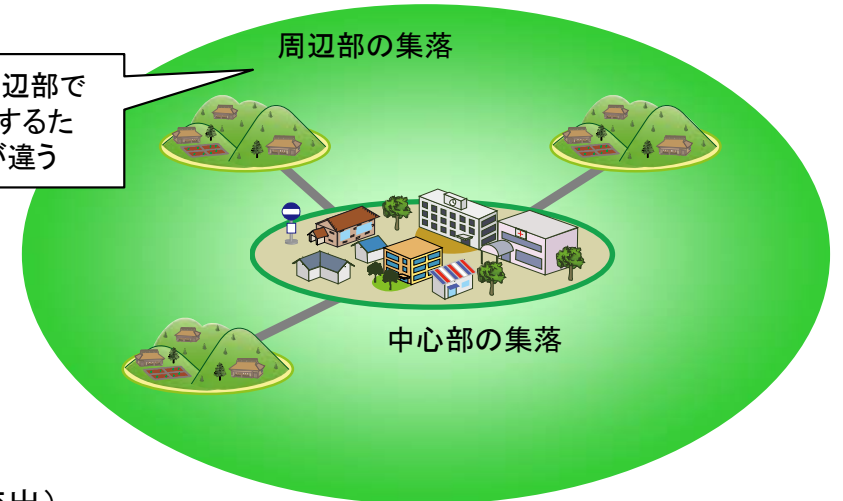
■生活を営む条件が異なる市町村の中心部集落と周辺部集落

・同一の市町村でもその中心部と周辺部では公共交通の状況、行政サービスの受けやすさ、買い物の便利さ、就業の条件等、生活を営むうえでの条件は様々で、その格差の拡大が懸念。市町村単位から地域単位、集落単位のよりきめ細かな支援が求められる。

■集落が保有する様々な機能(貨幣換算ができないものも含む)

- ・集落に住む人が保有する機能……………集落固有の知恵・技そして伝統芸能
国土管理の担い手
- ・集落にある森林・田畑が保有する機能……食料供給・建材供給機能
ダム機能(洪水緩和、水源涵養、土砂流出)
良好な景観が持つ癒し機能(レクリエーション・観光の場の提供)
Co2排出の低下

中心部と周辺部では、生活をするための条件が違う



3. 『集落元気づくり』のプロセスと課題

本調査・検討において実施してきた、外部支援を必要とする集落の抽出から、集落元気づくりの展開、そしてモニタリングまでの必要となるプロセスと課題を以下に示す。

① 「典型的な小規模・高齢化集落」の抽出

◇存続が危ぶまれる集落とは？

主な課題等	必要な専門性及び技術・知識等
<ul style="list-style-type: none"> ◆支援対象とする集落の条件設定 ◆集落の捉え方が多様で自治体の関与が必須 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 集落現況の安定的把握と継続体制

※本調査では、「存続が危ぶまれる集落」とはどのような集落となるかを確認するために、九州圏内の全市町村（職員）に対しアンケート調査を実施した。アンケートの結果、「10年以内に集落の維持が困難」と予測（意識）されている集落が550抽出された。抽出された550集落の約9割（481集落）は、高齢化率30%以上かつ世帯数150世帯以下となることから、これらの集落を「典型的な小規模・高齢化集落」として定義した。（詳細は、参考資料P28を参照）

65歳以上の高齢者が集落人口の半数を超え、冠婚葬祭をはじめ田役、道役等の社会的共同生活の維持が困難な状態におかれている集落を「限界集落」と表現する文献等があるが、「限界集落」という表現が適切ではないと考える地方公共団体等も増えているため、本調査・検討においても公式の表現として用いていない。

基礎調査

② 「集落元気づくり」の外部支援に向けた集落タイプ分類

主な課題等	必要な専門性及び技術・知識等
<ul style="list-style-type: none"> ◆集落内外の状況から支援必要性を判断 ◆生活形態の把握 ◆活発な活動集落へ間接的支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆支援の必要性を客観的に判断するしくみ（場合によっては学識者からの助言など）

※「典型的な小規模・高齢化集落」481集落のコミュニティの実態や集落側の意識（不安等）を把握するために集落代表者アンケートを行った。（333集落回収）

①で実施した市町村アンケートと集落代表者アンケートにより**集落タイプ分類**を整理した。（詳細は、参考資料P14を参照）

本編では③「集落元気づくり」の可能性検討において4つの集落を対象に実施した「集落元気づくり寄合」を紹介する。（P3～12参照）

③ 「集落元気づくり」の可能性検討

	支援に関する主な課題等	必要な専門性及び技術・知識等
0段階 参加の場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民アンケートに多くの時間と労力を要す ◆直接支援に向けた信頼関係の構築 ◆一定期間の継続的に従事できる体制 	<ul style="list-style-type: none"> ◆集落住民・他出者の意向アンケート結果や客観的データにより分析
1段階 気づきの誘発	<ul style="list-style-type: none"> ◆参加者のアンケート結果や寄合い内容を共有 ◆外部支援者は有意義な議論の一役を担う 	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部の目による集落資源の発掘 ◆ワークショップファシリテーション技術（中立的立場による話し合いの進行）及び集落支援に関する知識
2段階 集落元気づくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆集落等の主体的発意 ◆集落全体の共通認識として進める ◆中心人材の発掘 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ワークショップ新聞等の発行によるフィードバック ◆集落元気づくりの実現性の判断
3段階 自ら実行する意思	<ul style="list-style-type: none"> ◆可能な限り自立的な取り組みとする ◆外部支援者は係わりの深い者が適す ◆負担の少ない取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ◆単独の取り組みに対する見極め・誘導 ◆継続的な取り組みに関する知識の活用
4段階 元気づくりの実施	<ul style="list-style-type: none"> ◆楽しみ・生きがいにつながるよう工夫 	



集落の世帯毎に対する現地調査



外部支援者も含めた寄合いの開催



住民自らの手による集落元気づくり



桜のライトアップ
取り組みの実施

集落元気づくり

④ 持続的な「集落元気づくり」の展開

◇集落元気づくりの持続的な実施に向けた体制構築と事業導入

※必要に応じて、外部支援を投入、あるいは集落の再編

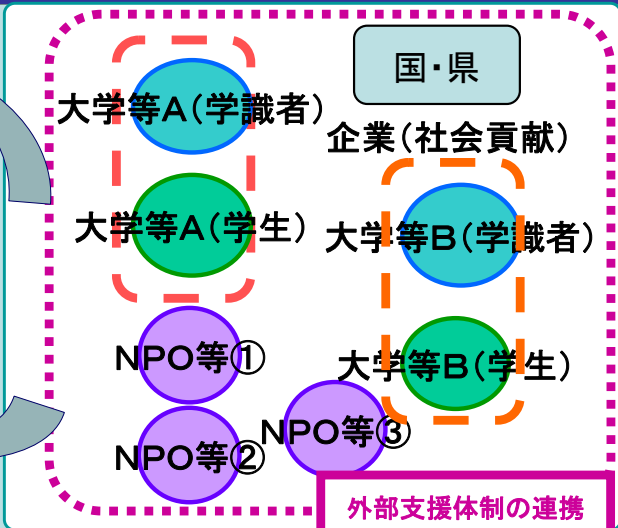
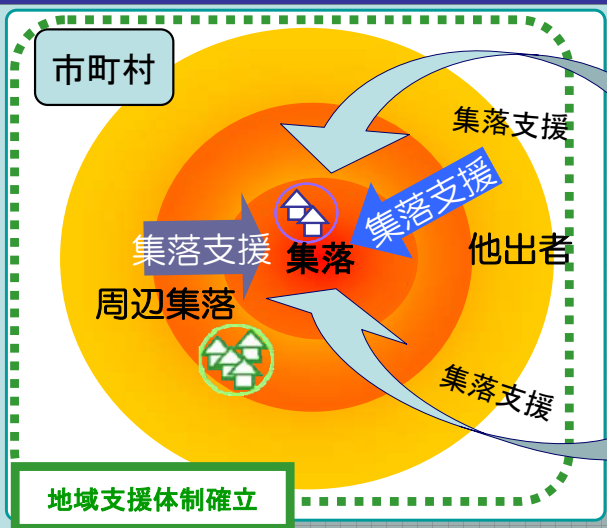
⑤ 集落の存続・維持に向けたモニタリング

◇集落の存続・維持のための事業効果検証

※定期的に集落の実態をモニタリング（概念は、参考資料P25を参照）

モニタリング

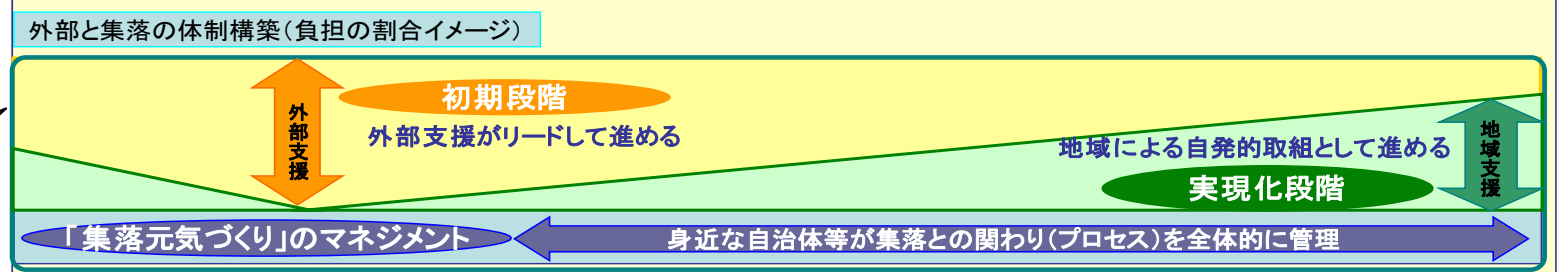
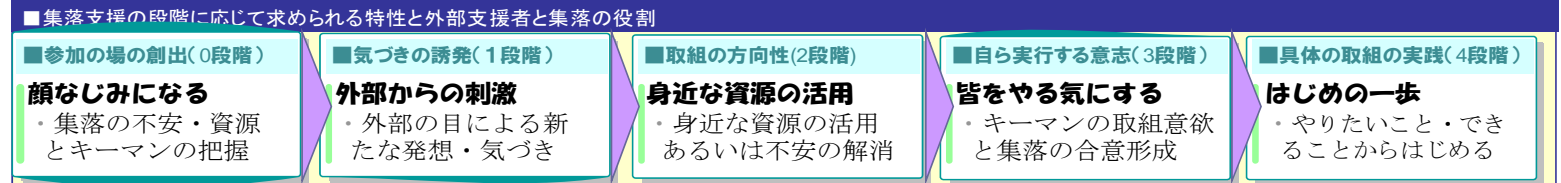
4. 『集落元気づくり寄合』の進め方



集落活性化の先行事例にならい、「集落元気づくり」では、外部支援者が集落に入り、寄合を行う等で周辺集落や他出者と協力しながら、集落を元気にするとりくみを行う。
『集落元気づくり』において行う寄合を『集落元気づくり寄合』として、その一連の流れを紹介する。
想定している外部支援者は、NPO、都市市民、企業(CSR)、ボランティア団体、大学等関係者、国や県等の職員である。また、地元自治体(市町村の職員)は地域支援者としての役割に加え外部支援者としての役割を担うことも期待される。

集落への支援のイメージ

具体的集落支援の例
「集落元気づくり寄合」そのものを支援
祭りの担手
休耕田を活用した都市・山村交流
勉強会、体験学習、商品開発
生活道路・水路・水源等の管理を支援
他地域の情報提供による支援
補助事業等を活用した支援



外部支援者と集落の主に期待される役割

	0段階	1段階	2段階	3段階	4段階
外部支援者	外部支援者を集落に受け入れてもらうための信頼関係づくり	外部者の視点も交え、集落の資源と不安の情報を共有する	集落の身近な資源の活用方法について先行事例等を用いてアイデア提案を行う	実現性が高い元気づくりの取組のプロセスを示す	取組が計画通りに実施されているかを見守る(必要に応じて支援)
集落・地元	集落の資源や不安を明らかにし、支援者(他出者・周辺集落)を把握	住民が普段気がつかないことに気づききっかけづくり	集落で活用可能な資源と取組内容・方法について考える	集落の活動可能な体制(身近な支援者含め)における役割分担を決める	集落内で話し合い、取組可能な事柄から実行する。身近な支援者と共に実施する

外部支援者に期待される主な役割は、支援の初期段階において、集落住民の自発性に火をつけること。(きっかけづくり)
その後、『集落元気づくり』の状況にあわせ、徐々に支援の度合いを下げ、最終的には集落・地元の自立した取組へと誘導していく。
『集落元気づくり』に係る外部支援の一連の流れを右に示す。
本調査では、右図の1段階から3段階の過程を、寄合(ワークショップ)方式にて実施した。

集落元気づくり寄合(ワークショップ)の段階

1) 集落への挨拶(顔なじみになる)

■ 区長等の集落代表者への挨拶

■ 『集落元気づくり』の先導役として期待されるキーマンへの挨拶

※ 地元関係者以外の方が集落支援をする場合は、集落住民の警戒心を低減させるため、自治体職員との同行により挨拶を行うことが望ましい。

※ 苗字ではなく、名前で呼んだり、服装も正装より私服や作業服等を選択する等、緊張感を軽減させる等の配慮も重要

※ 他出者の参画が重要と判断される場合は、他出者が集落へ帰省する時期(盆や祭り、運動会等の行事)に、挨拶や訪問調査等を行うとその後の「集落元気づくり」がスムーズにいくことが期待される。

※ キーマンとは区長経験者や、元行政職員、地元で長く住んでいる意欲的な人、NPO等の活動家など。



集落の実態を把握するための聞き取りを行政職員、区長、若手代表同席で実施



役場職員と共に挨拶まわりをすることで、信頼関係が築ける。



集落の世帯毎への基礎調査を兼ねた挨拶回りをを行い、信頼関係の構築を図る。



集落への挨拶を他出者が帰省するお盆にすることで、他出者団体とうまい具合に遭遇。他出者団体は、今後の「集落元気づくり」の担い手として期待される

2) 現地調査(他出者の視点で)

■ 現地調査

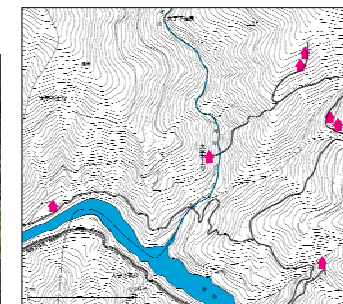
※ その後、『集落元気づくり』の具体的な取り組みのヒントとなる、集落の資源や生活不安を、確認するために重要。特に資源については、地元の集落住民では気づかない視点で、新たな発掘がなされるケースが多いため、現地調査は、可能な限り外部からの視点で詳細に行うことが望ましい。



目の前に広がる海を活用した取組は出来ないだろうか？



各家庭において養蜂がされている。住民にとって当たり前でも、外部から見れば、資源？



山間部に多い、散居型の集落。世帯間の距離が遠く、寄合の開催には交通手段の手配が必要か？

3) 集落住民アンケート

■集落住民アンケート

※『集落元気づくり』では、集落全住民の生活実態や意向を確認しながら行うことが重要であり、特に小規模な集落ほど、一人一人の集落に対する想いを大切にしながら進めることが重要。そこで、集落住民の全世帯に対し住民アンケートを行う。

※このアンケートは、後に行う1回目の『集落元気づくり寄合』において、住民同士が共有する重要なデータを収集するうえで重要。また、小規模化・高齢化が顕著な集落では、他出者の参画が重要になることが多いため、それら他出者の所在を確認するためにも重要である。

■主なアンケート項目

- ① 家族構成と他出者の所在
- ② 後継者が他出している場合の帰省の状況
- ③ 『集落元気づくり寄合』の参加希望
- ④ 情報共有の環境(インターネット)



アンケートを訪問調査により行った事例(顔なじみになるねらいもある)

本調査で使用した調査票の例

世帯主が回答

質問1 世帯主の方のご氏名、連絡先(電話番号・住所)、生年及びご家族に関する下記の項目についてお答え下さい。				
世帯主の氏名	連絡先(電話)			
ご住所	生年	大正・昭和	年	
家族構成を記入例に従い書いて下さい。 ・年齢・職業 ・世帯主の箇所は世帯主とご記入下さい ・別居者の住所(お住まいの市町村外であればその地名)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">世帯主</p> <p style="text-align: center;">記入例) ●: 男性 ○: 女性</p> </div>			
集落内に親族の方がおられましたら、その名前と続柄について教えてください	氏名		続柄	
	氏名		続柄	
	氏名		続柄	
以下のあてはまる項目に○をつけて下さい。				
後継者の状況について	後継者の有無	①いる ②いない		
	後継者の同居の有無	①している ②していない		
	別居の場合	帰省の状態	①年3~4回以上の行き来 ②盆・正月の行き来 ③ほとんど帰らない	
		連絡の頻度	①年数回程度 ②月1回程度 ③週1回程度	
		住所	①市町村内 ②市町村外()	
		住居	①自家 ②借家	
	家業の手伝い	①定期的に行っている ②行っていない		
将来は(定年後)	①戻る予定 ②戻らない ③わからない			
世帯主の他出経験	集落を出た経験有り	①有り(場所 何年間) ②なし		
パソコンの保有状況	①保有している()台 ②保有していない			
インターネットへの接続	①している ②していない			
インターネットの用途	①ホームページの閲覧 ②メール ③商品の売買 ④その他()			
パソコンの利用状況(同居)	①親 ②本人 ③子 ④孫			
災害時の避難の状況について()内に地名をお書き下さい	家族全員で避難	①集落内 ②中心集落 ③それ以外()		
	高齢者のみが避難	①集落内 ②中心集落 ③それ以外()		
ワークショップ(まちづくり座談会)への参加希望(世帯から複数参加可能)	ワークショップへの参加	①する(名) ②しない		
	情報の提供を希望	①する ②しない		

4) 他出者アンケート

■ 他出者アンケート

※集落住民の思いと、他出者の集落への思いを共有するために重要となる。特に小規模化、高齢化が進行した集落では、他出者の存在は重要となる。

※他出者の『集落元気づくりのための寄合(ワークショップ)』への参加を促し、具体的な取り組みの担い手(プレイヤー)としての参画を促す意味でも重要となる。

※アンケートの配布は、郵送よりも、訪問による配布(聞き取り)がより効果的。アンケートの調査時期は他出者が集落へ帰省する時期(盆、祭りや運動会)に行う等工夫が必要。

■ 主なアンケート項目

- ① 帰省の状況
- ② 帰郷・居住継続の意志(予定)
- ③ 『集落元気づくり寄合』の参加希望
- ④ 情報共有の環境(インターネット)

5) 『寄合』への呼びかけと準備

■ 参加の呼びかけ

- ① 住民へ： 全世帯に参加を案内する。世帯主だけの呼びかけでなく参加可能な集落住民に参加を呼びかける。
- ② 自治体職員へ： 寄合の支援主体が地元関係者以外の場合は、地元自治体(総務企画系等)と日程調整のうえ参加を要請する。
- ③ 他出者・周辺集落へ： 小規模集落ほど、『集落元気づくり』の担い手が不足することがある。できるだけ多くの参加者を促すために、他出者や周辺集落の代表者等に参加を呼びかける。

■ 準備

- ① 寄合会場の手配 ※集会場等
- ② 高齢者等の移動手段の手配
※散居型集落では留意が必要
- ③ 寄合スタッフと資料の準備



寄合開催前に他出者団体の集落支援意向を把握した事例





本調査・検討で利用した調査票の例

質問1 世帯主の方のご氏名、連絡先(電話番号・住所)、生年及びご家族に関する下記の項目についてお答え下さい。

世帯主の氏名			連絡先(電話)			
ご住所			生年	大正・昭和・平成 ____年		
e-mail						
集落を出た年齢	才	その理由	①進学 ②就職 ③結婚 ④その他()			
以下のあてはまる項目に○をつけて下さい。						
出身集落とあなたの関係について	出身集落のご親族(実家)の氏名					
	続柄					
	帰省の状況	帰省の状態	①年3~4回以上の行き来 ②盆・正月の行き来 ③ほとんど帰らない			
		連絡(電話等)の頻度	①年数回程度 ②月1回程度 ③週1回程度			
		帰省の費用(家族全員)	円(1回あたり往復)			
		帰省の交通手段	① 自家用車 ② 公共交通			
上記交通手段に要する時間	時間(片道)					
帰省のきっかけとして考えられる理由(複数回答可)	①集落の行事 ②お墓参り ③同窓会 ④冠婚葬祭 ⑤集落内の共同作業 ⑥長期休暇(お盆、正月) ⑦休日(2日程度) ⑧その他()					
帰郷・居住継続について	あなたの出身集落への今後の帰郷意向		①今後とも出身集落に戻るつもりはない ②出身集落に戻るかどうか悩んでいる ③近い将来、出身集落に戻るつもりである ④定年退職後に出身集落に戻るつもりである ⑤その他(具体的に:)			
	ご在住の親族が災害等の事情により、居住継続が困難となった場合		①集落に住み続けられるように援助する ②別住所に転居してもらうことを考える ③わからない			
出身集落ご在住の親族とのパソコン利用状況について	ご在住の場合	パソコンの保有状況	① 保有している()台 ② 保有していない			
		インターネットを通じた集落に居住する親族との連絡	① している ② していない			
		インターネットをしていない理由(上記においてしていないと回答した方)	① パソコン操作が困難なため ② パソコンを利用できる環境にないため ③ その他の方法で足りているため			
	パソコンの利用状況		①本人 ②子 ③孫 ④親			
集落元気づくり*ワークショップ(まちづくり座談会)への参加について(※集落元気づくりについては本アンケートP7参照)参加を希望する場合、上記住所へ連絡先へのご記入を必ずお願いいたします。後日開催日等の連絡をさせていただきます。			① 参加したい ② 情報提供(開催結果)を希望する ③ 参加しない			

4-2. 『集落元気づくり寄合』の開催【全段階共通】 1/2

■主催者の班編成の例

	担当グループ		その他の役割
	第1グループ	第2グループ	
	進行役(第1グループ)		・全体進行役 ・設営係
	記録係(第1グループ)		・受付係 ・設営係 ・送迎係
		進行役(第2グループ)	・設営係
		記録係(第2グループ)	・受付係 ・設営係 ・送迎係

■主な準備品リスト(例)

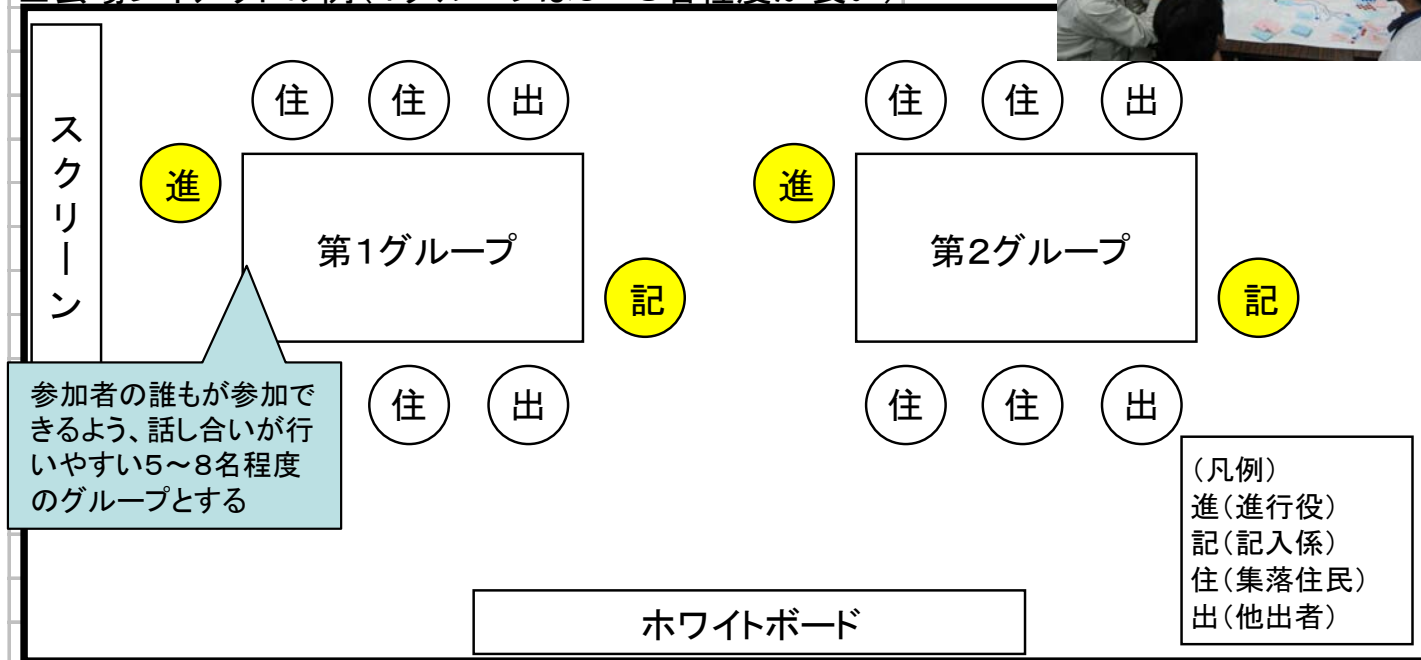
項目	数量
集落の図面(A1~A2)※森林基本図等を活用	グループの数+予備
プロジェクター・スクリーン	1式
パソコン	1式
デジカメ・ビデオカメラ	2個
ゴミ袋	2袋
付箋紙(大きめのもの)2色	100枚程度/色
油性ペン・水性ペン	グループの数+予備
プログラム	参加人数分
名札	参加人数分
自己紹介シート	参加人数分
ふりかえりシート	参加人数分
筆記具	参加人数分



進行役の主な役割

- ①参加者が寄合に主体的に参加できるよう促す
- ②自由な議論ができる雰囲気を作り(なごませる)、全員が参加出来るよう全体に気を配る。(議論の質より量が重要)
- ③寄合の時間管理を行う
- ④寄合に停滞感が出た場合、参加者がアイデアを出しやすいよう、議論の呼び水として外部の視点から見た「問いかけ」や先行事例(参考資料P23~24参照)の提供を行う。

■会場レイアウトの例(1グループは5~8名程度が良い)



『寄合』を円滑に進めるための工夫

1) 『自己紹介シート』

寄合を始める前に、**その場の雰囲気を和ませるために行う**自己紹介時に使用する。(一般的にICE BREAKINGと言われる手法)

寄合の開催前に自己紹介カードを渡し、参加者に記入を依頼。自己紹介は時間を区切って行い(1人1分程度)、多くの人が発言できる雰囲気を作る。

自己紹介カード	
ふりがな	
氏名	職業
1. 参加している集落活動(当てはまるものに○で囲んでください)	
①自治会 ②婦人会 ③青年団 ④消防団 ⑤神楽 ⑥その他()	
2. あなたの身のまわりで発生している問題や不安に感じる事	
3. 残したい資源(活用可能な空き家、耕作放棄地、神社やほこら、また知恵や技術など)	
4. あなたが今後取り組んでみたいこと(活動やイベントなど)	
5. あなたの特技や趣味	

【代表的な集落元気づくり寄合の感想】

- ・歳を取った私でも良くわかりやすかったので、若返りました(A集落 80才女性)
- ・高齢者集落を元気にしていこうとする取組がすごくわかりやすく、感動すら感じた(C集落 他出者男性)
- ・普段聞けなかった集落の人の意見や、自分の知らない昔の出来事が確認された。(A集落 50代男性)
- ・全員そろって話し合いが出来たことがうれしかった。(C集落 80代男性)
- ・自らの集落の良さや課題を議論していく中で、高齢化は進んでいるが、住民のパワーはまだあるように感じた。昔話をきっかけに高齢者が生き生きとしているように感じた。

2) 『振り返りシート』

『集落元気づくり寄合』の主催者が、**寄合がうまくできたかを確認するために**、寄合の最後に参加者全員に配布し、記入していただく。更に、振り返りシートの内容をもとに新聞(便り)を作成し、**寄合参加者や、寄合に参加できなかった集落住民・他出者に周知すること(寄合新聞)にも活用**。

平成 年 月 日 ()

第2回〇〇村(△△集落)集落元気づくりのための寄合
ふりかえりシート

お疲れ様でした。本日の寄合いで皆さんが感じたことやご意見をお書き下さい。

1. 本日の寄合いの感想をお聞かせください。

① 内容の分かりやすさはどうでしたか? あてはまるものに○を付けて下さい
[分かりやすかった 分かりにくかった]

② どういうところが「分かりやすかった/分かりにくかった」でしょうか。

③ 寄合いに参加されて気が付かれたことや感想などを自由にお書きください。

2. 本日の各グループの発表を聞いて、すぐにでもやってみたいと思った集落元気づくりの取組は何ですか? ご自身の参加を前提としてお答え下さい。また、その取組において、あなたが協力できることは何ですか?

取組名称: _____
その理由: _____

あなたが協力できること: _____

ご協力ありがとうございました。次回の参加をお待ちしております。

お名前 ()

3) 『寄合新聞(便り)』

寄合の成果を情報発信するため、寄合開催後に便りを発行し、集落居住者、他出者、寄合関係者へ郵送等により配布する。

寄合の参加者にとっては**寄合を客観的に振り返ることができ**、参加していない集落居住者や他出者へは、興味を喚起させ、**次回寄合の参加や具体の取組への参画を促すねらいがある**。

〇〇村△△集落
集落元気づくり新聞
平成21年3月11日 第3号
発行: 国土交通省九州地方整備局

第3回 集落元気づくり寄合開催される!

平成21年3月9日(月)に△△活性化センターで、第3回集落元気づくり寄合を開催しました。

小雨が降る中、△△活性化センターには約30名の方が集まり、今回は熱心な議論がされました。いよいよ最後の寄合であり、集落元気づくりに向けた取組の実現に向けて、地区活動を行っている団体別(消防団、女性部、地区執行部他)に分かれて協議を行いました。自分たちが考えた4つのプロジェクトを何から始めるのか? 順に実行され始めた取組や、なかなかやり手が見つからない取組まで、集落の未来を話し合う発言一つ一つには力がこもっていました。



あいにくの雨、でも会場は熱気に包まれていた

※事例の詳細は参考資料P22を参照

4-3. 1回目の『集落元気づくり寄合』の開催[1段階 気づきの誘発]

進行役の進め方①「主旨説明」

例)「集落元気づくり寄合」では、集落の人々のくらし・生活をいかに維持していくかに焦点を当てながら、元気を呼び戻すために、集落の人たちの力で、一緒に考え、話し合いながら「集落元気づくりの取り組み」を見いだしていくことを目的としています。

進行役の進め方②「全体の流れと第1回寄合の位置付けを説明」

例)これから3回の寄合を実施していきます。1回目の寄合では「集落の現状について」、2回目は「取り組みの方向性について」、3回目は、「具体的な取り組みの実施時期や役割分担」について話しあいます。

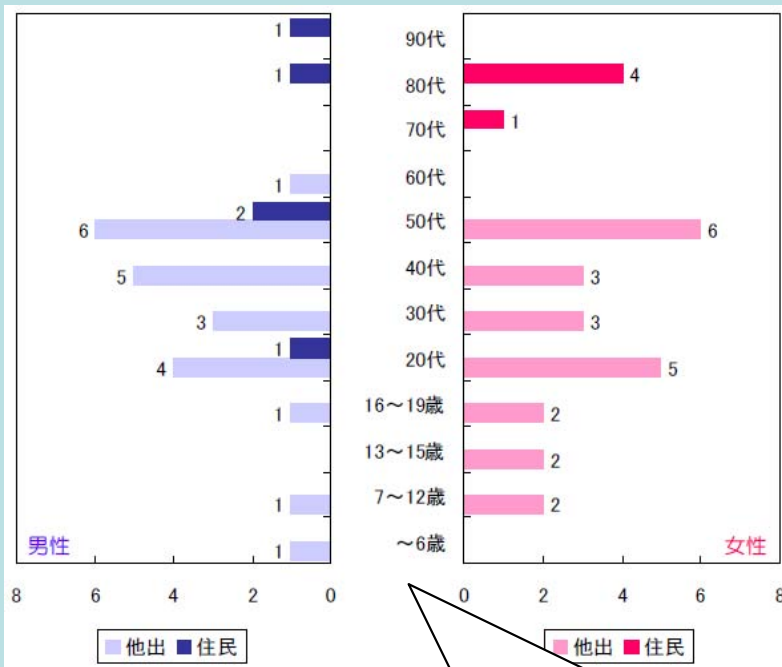
進行役の進め方③「第1回寄合の作業内容の説明」

1. 自己紹介
2. 人口ピラミッドの提示
3. ガリバーマップ
(不安と資源)の作成
4. 成果の発表
5. 振り返りシート記入



①『人口ピラミッド』の提示

集落の居住世帯と他出の状況を把握するため、集落居住者と他出者の人口ピラミッドを作成しておく。
(予め行っているアンケート調査票を参考に作成)



男女の各年齢構成毎に、上段に集落居住者、下段に他出者の人数を示していく。人口ピラミッドを示すことにより『集落元気づくり寄合』の参加者全員が集落の人口の状況を視覚的に実感することができる。

②『ガリバーマップ』の作成

ガリバーマップとは、大判の地図に、それぞれが知っている「地域についての知識」を書きこんでもらい、その知識の共有を図る手法。子供から高齢者まで様々な人々による作成ができる。『集落元気づくり寄合』においては、集落の不安や資源を地図上に記入していく。



記録係は、参加者の発言内容の要旨を付箋紙に記録し、集落の図面に添付していく。作業の最後には、記録係やグループ進行役は、付箋紙に記載されている内容について再確認を行う。

グループ進行役は、資源を聞き出すために、参加者の思いでや、集落の歴史、家庭の味等を中心に聞き出す。外部の参加者が資源を見つけ出すことも多い。
不安については、「災害の経験」、「高齢化」、「獣害」などの実態を確認する。



集落現況マップ(グループ①)

(●:不安、●:資源)

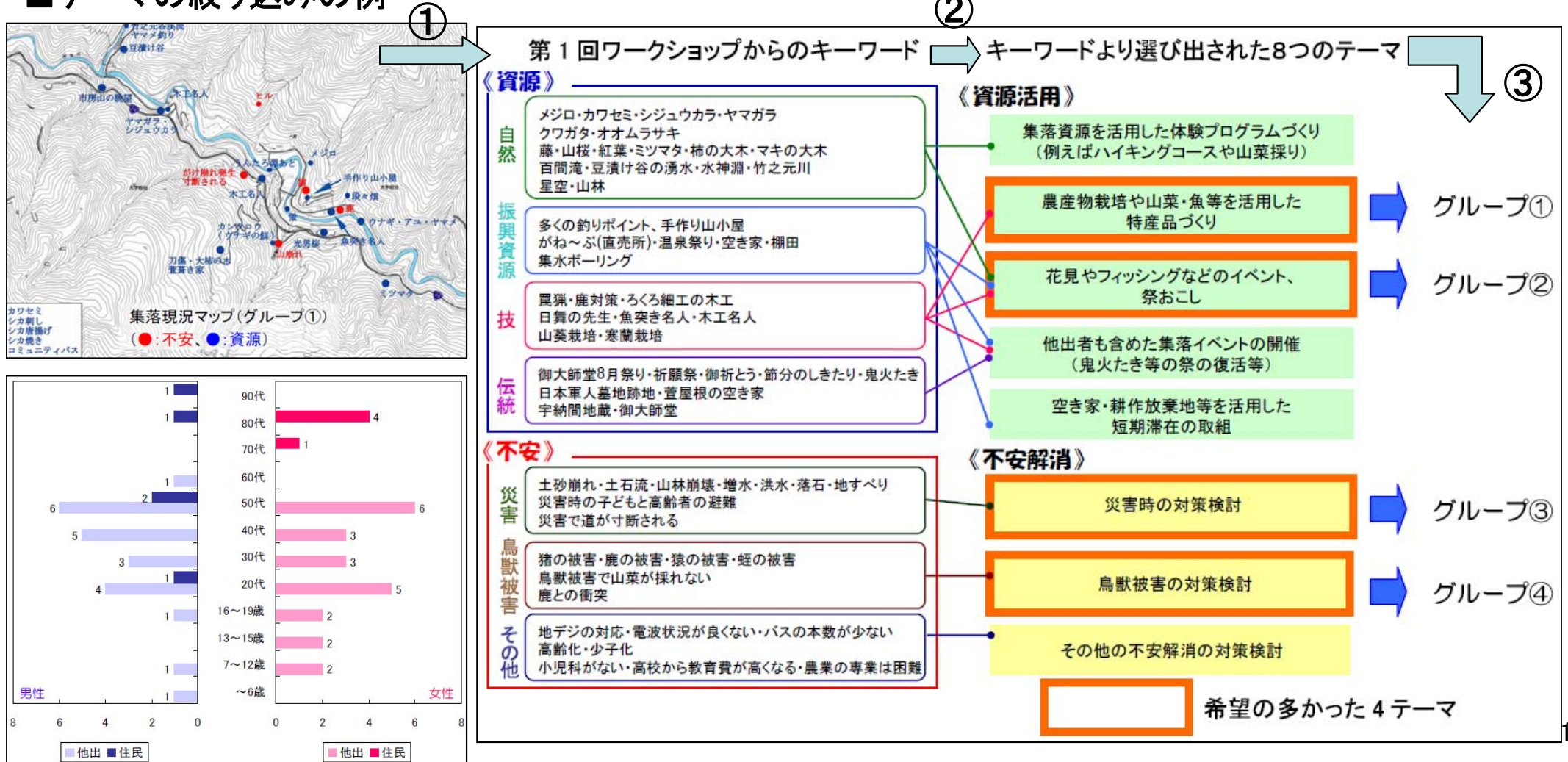
猿一匹退治したら4万円
シカ・サル・イノシシ一番悪い
蜂が全体的に減少 (蜂の病気が)
サドガラ...

4-4. 2回目の『集落元気づくり寄合』の開催【2段階 取組の方向性】 (1/2)

第2回寄合の準備作業「考えられる取組の準備」

- ① 第1回寄合において抽出された、「資源」と「不安」について、**キーワードの分類分け**を行う。
- ② キーワードの分類分けを受け、「資源の活用」、「不安の解消」の観点より、**考えられる取組テーマ**を複数案考える。※ここでいう取組テーマは、**方向性を示す程度の概略的**なものとし、詳細は寄合の参加者が主体で決定する。
- ③ ②の**考えられる取組テーマ**について、集落の規模や、実現可能性、前回寄合の雰囲気等より絞り込みを行う。考えられる取組が多数ある場合は、第2回寄合の開催前に寄合参加者にアンケートを行い実践意欲を確認したり、または第2回寄合時に寄合参加者に確認することにより絞り込んでよい。

■テーマの絞り込みの例



4-4. 2回目の『集落元気づくり寄合』の開催【2段階 取組の方向性】(2/2)

進行役の進め方①「第2回寄合の位置付けを説明」

例)「前回の寄合において確認ができた集落の課題を受け、今回はこれらの課題を解決するための**取組みを企画立案**していきます。」

進行役の進め方②「第2回寄合の作業内容の説明」

- 例) 1. 自己紹介
 2. **前回寄合のふりかえり**
 3. **取組みの企画立案**
 4. 成果発表(成果を共有)
 5. 振り返りシート記入

進行役の進め方③「前回寄合のふりかえり」

前回整理した、人口ピラミッド、ガリバーマップ(資源と不安)と、前頁の「考えられる取組テーマ」について説明する。

進行役の進め方④「取組の企画立案」

集落の課題を解決するための取組を考えていきます。具体には「プロジェクト立案シート」を作成。

「プロジェクト立案シート」の作成

例) 他出者も含めた集落イベントの開催

予め準備した考えられる取組テーマ(あくまでも方向性)を説明する。参加者により取組テーマの提案があった場合は、両者を比較し、より実践意欲の高い取組テーマを絞り込む。

6 作業イメージ

元気づくりプロジェクト名: 「**鬼火焚き**」 **先人たちも楽しんだ80年前の伝統復活!!!**

元気づくりプロジェクトの概要		実現に向けた検討項目				
② 現況・将来の問題・課題(資源活用・不安解消)	② 取組の内容	③ 「人」(人材・組織)	④ 「モノ」(活用できる資源)	⑤ 「技」(継承できる技術)	⑥ 「宣伝」(人集め、話し合い等)	⑦ その他
他出者の帰省が少ない	他出者の状況把握	集落各世帯	世帯アンケート		各世帯の他出実態をアンケートで把握	
祭の担い手がない	他出者の集落活動への参加	宮崎県内に住んでいる他出者	他出家族の名簿作成	他出した世代の子供も参加する	集落在住世帯による電話連絡	
集落の伝統的文化の継承	伝統文化「鬼火焚き」の復活	伝統文化に詳しい〇〇さん	鉄砲 鬼のお面	祭のいわれ、方法の継承	寄り合いを開催 回覧板	〇〇祭(〇月開催)

- ①「元気づくりプロジェクト名」: プロジェクト名称「キャッチフレーズ」を考案する。
- ②「取組の内容」: プロジェクト名称から特に重要な取組みを掘り下げていきます。
- ③「人」: 取組に必要な人材・組織名を具体的に記載
- ④「モノ」: ガリバーマップ(資源)に記載されている集落内で活用可能な資源・モノを記載
- ⑤「技」: 取組を行う上で集落人材育成方法(技術の継承等)、外部より学ぶべき技術・ノウハウを記載
- ⑥「宣伝」: 取組についてより多くの人に知ってもらうための情報発信方法や、取組を行う上で、収集すべき情報について記載
- ⑦「その他」: 必要に応じて記載※阻害要因など

(ポイント)

討議に行き詰まりが見られる場合、グループ進行役は予め用意しておいた「**先行事例**」の紹介や、グループ間の意見交換を行うよう誘導していきます。 ※「先行事例」は、参考資料P23~24参照

4-5. 3回目の『集落元気づくり寄合』の開催【3段階 自ら実行する意志】

適用した四面会議システムについて

ワークショップの1手法に、**四面会議システム**があります。

目標達成のため個別のテーマについてグループ単位での議論にとどまらず、**グループ同士で相互に討論**を行い、各グループの役割分担や相互の連携を話し合いながら、実践可能な計画をたてていく方法です。※四面といってもテーマやグループを4つ用意する必要はありません。

4面会議システムの一般的な手順

1. SWOT分析
目標を達成するための強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) を分析します。

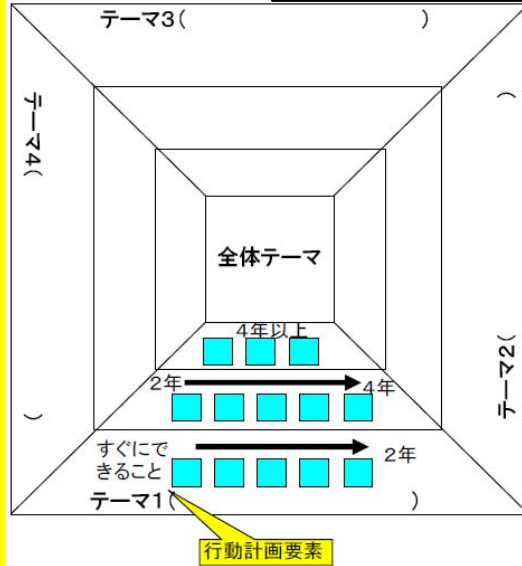
2-1. 四面構成
テーマ・達成目標

2-2. 四面会議シート
行動計画案の作成

3. 討論(ディベート)
対面同士で討論

4. 行動計画書
実践可能な計画書の作成

「集落元気づくり寄合」では前頁のプロジェクト立案シートの作成過程で整理。



四面会議シート

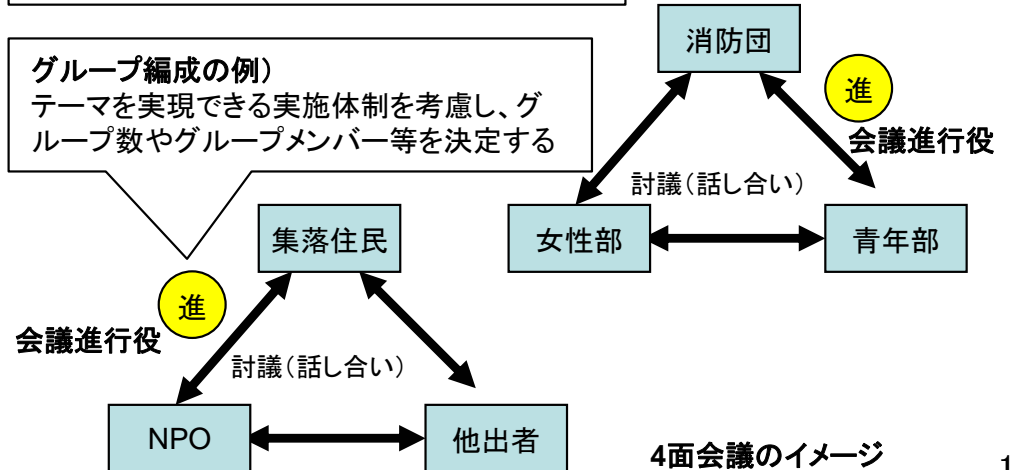


四面会議図を使った討論の様子

全体テーマ:	MADE IN そこらへん ～ミツマタ キヨシの花だらけ村～	△△集落夜桜まつり ～先ず地元→村内→村外～
5年以上	③ミツマタの加工技術の導入 ・紙すき技術の導入	②トイレの設置・整備 ・イベントが定着してから整備 ③足の確保 (夜のバス) + ④特産物の販売体験 ・イベントが定着してから (特産品が出来てから?)
2～4年	①ミツマタの栽培 ・ミツマタの挿し木がつけば植え替えができ、大きくなると皮がむける ・ミツマタは観賞用と製品用では育て方が違う→3年位細く育てる必要がある ④茶の実の収穫 ・価格、量があれば誰でも出来る ⑤油を絞る技術の導入 ・村長が既知 ⑩草木染めの技術の導入 ・(△△集落の方におられる)→Aさんが開く ・草木染めの講習会を開く (女性部)	⑧バーベキューの準備 (肉は猪、鹿肉を利用) ・正月くらいは猪、鹿が一番おいしいが今年是用意していない
すぐに実施可能	①ミツマタの栽培 ・苗取りを植えているが取るのは限界がある → 挿し木実施中: 500～600本植えて付けている (Bさん) ・生まれて初めて挿し木をしている (300～400本) (Cさん) ・畑に小砂を混ぜて10月になると結果が出る (Cさん) ・挿し木...ターネット情報 (Cさん)	①光男桜をライトアップ ・5～6つのイベントで利用 (消防・個人) ・発電機の確保→消防にある ・消防のライトで試す必要の有る ・工事をしている業者から借りる (イベントのみ→地元への協力)

使用した四面会議シートの例
いつ、だれが、何をやれるかをグループ間で討議しながら四面会議シートに記入していく

グループ編成の例
テーマを実現できる実施体制を考慮し、グループ数やグループメンバー等を決定する



四面会議のイメージ

参考資料

平成23年2月

1) 集落の分類と支援方策

支援集落を決定するには、以下の方法が考えられます。

- 1) 自治体職員の主観により抽出
 - ※偏った意見にならないよう、複数の職員により抽出するのが望ましい
- 2) 客観的な指標(世帯数・高齢化率)により抽出
- 3) 集落住民の自己申告(集落代表者等アンケート)により抽出

本調査では、支援集落と、その支援方策を決定するために、下記の4つの項目により集落を分類

- 1) 『集落元気づくり』への関心は？
- 2) 既に実施している『集落元気づくり』の取組は？
- 3) 自立した『集落元気づくり』への意向は？
- 4) 集落の世帯規模や人材・組織の状況は？

情報不足(情報無し)

集落の代表者からの意見が得られない等の理由により集落の状況が把握できない集落。引き続き情報収集に努める必要がある。情報が収集できた時点で、下の4つの集落に分類される。

意欲喚起型集落(取組意欲少)

支援型集落との違いは、集落元気づくりへの意欲が少ないこと。住民の意欲が少ない原因(不安等)の特定を行う必要があり、原因を排除することにより意欲喚起を促す工夫が必要。

支援型集落(取組意欲有・外部支援)

自立型集落に比べ、集落の人材・組織の条件が厳しい集落。集落単独での自立した活動にむけ、他出者や周辺集落等の地縁・血縁型の支援者(本調査では地域支援者と定義している)の確保に努める等の工夫が必要となる。

自立型集落(取組意欲有)

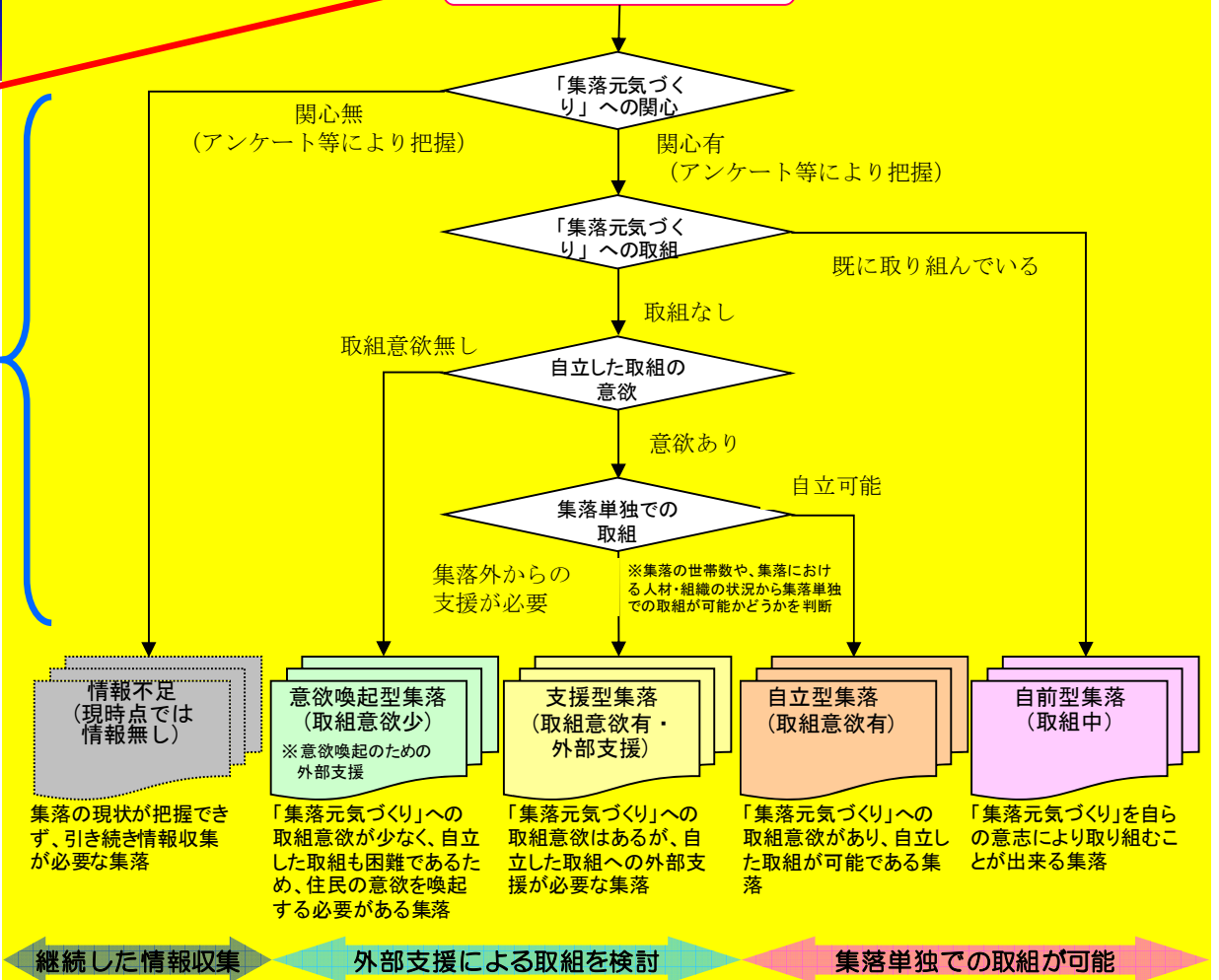
集落の人材・組織の状況から判断すると、集落単独での取組める状態の集落である。また、『集落元気づくり』への意欲もあることから、『集落元気づくり寄合い』の開催により、きっかけを与えることで、自立した具体的な活動が取組まれる期待が高いと考えられる。

自前型集落(取組中)

「集落元気づくり」を自らの意思で既に取組んでいる集落。地域コミュニティの活動力が比較的高い集落であると考えられ『集落元気づくり寄合い』の開催の必要性は他の集落タイプに区分された集落よりも低いと考えられる。

集落の分類例

対象とする小規模・高齢化集落
高齢化率50%以上、世帯数20世帯未満



「集落元気づくり」への取組意向	説明	支援方策	STEP1	STEP2	STEP3
			基礎情報収集(0段階)	きっかけづくり(1~3段階)	取組の実施(4段階)
			アンケート調査	寄合い(ワークショップ)	成功事例集
自立型集落(取組意欲有)	「集落元気づくり」への取組意欲があり、自立した取組が可能である集落	「集落元気づくり」のきっかけを与え、基本方針を策定	「集落元気づくり」を実施する上での生活不安と集落資源を外部からの目により把握・評価 一部支援	「集落元気づくり」のための寄合いを集落にて開催し、きっかけを与える 一部支援	「集落元気づくり」の基本方針に応じて取組を実施する 自立
支援型集落(取組意欲有・外部支援)	「集落元気づくり」への取組意欲があるが、自立した取組が困難であるため、外部支援を考慮する必要がある集落	外部支援者を含め、「集落元気づくり」のきっかけを与え、基本方針を策定	集落元気づくりを実施する上での外部支援者把握 一部支援	外部支援者も参加した上で、集落元気づくりワークショップを開催し、きっかけを与える 継続支援	外部支援者と協働で実現できる取組を実施 継続支援 自立へ
意欲喚起型集落(取組意欲少)	「集落元気づくり」への取組意欲が少なく、自立した取組も困難であるため、住民の意欲を喚起する必要がある集落	取組意欲が少ない原因を明らかにし、その要因解決に向けた対策が可能であるか検討する	取組意欲がない原因把握 継続支援	取組意欲が少ない原因を明らかにするため、集落住民が外部支援者を含めた寄合いを開催 継続支援	取組意欲が喚起された後、基本方針を策定し、取組実施 継続支援 自立へ

2)『集落代表者等アンケート』の例

(1/3)

はじめに、回答者の方のご氏名、連絡先（電話番号・住所）、生年をお答え下さい。
（今後資料の送付の際に使わせていただきます。）

集落名				
ふりがな ご氏名		連絡先（電話）	生年	大正・昭和 年 生まれ
ご住所				

■集落の住民共同活動の実態について

質問1 集落の住民が共同で行う活動についてお聞かせください。《それぞれの項目について、あてはまるものに○をしてください》また、その「主な要因」について下の「選択肢」より最も合うもの一つだけ選んで記号（カタカナ）を記入してください。なお、「以前」とは「戦後（昭和20年以降）、この集落に最も多く人が住んでいた頃」とお考え下さい。

	現在は行なわれなくなった	以前は行なわれていたが、 以前から行なわれていない	以前から現在まで引き続き 行なわれている	最近になって行なわれる ようになった	主な要因 （下の選択肢から1つ）
（例）お花見会の開催	1	②	3	4	イ
1) 荒廃農地の共同維持管理	1	2	3	4	
2) 農作業の手間がえ・結い	1	2	3	4	
3) 集落共有の山林・牧野の共同作業	1	2	3	4	
4) 集落道の草刈などの共同作業	1	2	3	4	
5) 用水路の清掃などの共同作業	1	2	3	4	
6) 神社・仏閣・墓地の維持管理	1	2	3	4	
7) 集会所・広場等の維持管理	1	2	3	4	
8) 集落内での葬儀の実施	1	2	3	4	
9) 集落内での祭り	1	2	3	4	
10) 伝統芸能の継承活動	1	2	3	4	
11) 運動会や旅行などレクリエーションの実施	1	2	3	4	

主な要因の「選択肢」

- ア. 特に理由はない イ. 人口の減少 ウ. 人口の高齢化 エ. 農外就労の増加
オ. 農林業の低迷 カ. 役場や農協、普及所などの助言・指導、支援 キ. 民間組織の支援

質問2 集落の住民が共同で行う活動の重要性についてお聞かせください。
次にあげるような活動や支援は、現在のこの集落にはどの程度重要と思われるですか。《それぞれの項目について、あてはまるものに○をしてください》

	まったく重要でない	あまり重要でない	どちらともいえない	やや重要である	たいへん重要である
（例）お花見会の開催	1	2	3	④	5
1) 荒廃農地の共同維持管理	1	2	3	4	5
2) 農作業の手間がえ・結い	1	2	3	4	5
3) 集落共有の山林・牧野の共同作業	1	2	3	4	5
4) 集落道の草刈などの共同作業	1	2	3	4	5
5) 用水路の清掃などの共同作業	1	2	3	4	5
6) 神社・仏閣・墓地の維持管理	1	2	3	4	5
7) 集会所・広場等の維持管理	1	2	3	4	5
8) 集落内での葬儀の実施	1	2	3	4	5
9) 伝統芸能の継承活動	1	2	3	4	5
10) 集落内の寄り合いや話し合いの活性化	1	2	3	4	5
11) 他の集落との連携	1	2	3	4	5
12) 外部の人や団体からの支援受け入れ	1	2	3	4	5
13) 他大家族・親族とのきずな強化	1	2	3	4	5
14) 訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れ	1	2	3	4	5
15) 直売活動や交流活動の取り組み	1	2	3	4	5
16) 住民の「足の便」の確保	1	2	3	4	5
17) 行政と一緒に取り組む地域づくり活動	1	2	3	4	5

2)『集落代表者等アンケート』の例

(2/3)

■集落の実態について

質問3 現在お住まいの集落への、今後の居住意向についてお聞かせください。
《以下の選択肢から1つ選び、○をしてください》

- ① 今後とも住み続けたい
- ② 状況によっては離れざるをえない
- ③ 近い将来、子供たちのところなど、集落を離れるつもりである
- ④ その他(具体的に: _____)

質問4 今後居住を継続する上での不安は何ですか。
《それぞれの項目について、あてはまるものに○をしてください》
また、1)～15)の項目において、特に不安に感じられる項目3つに○をして下さい。

	大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	不安に感じる 上位3つに○
1) 医療施設が遠い(医療サービスを受けにくい)	1	2	3	4	
2) 福祉施設が遠い(福祉サービスを受けにくい)	1	2	3	4	
3) 地域行事を営むことができなくなってきている	1	2	3	4	
4) 共同作業を営むことができなくなってきている	1	2	3	4	
5) 鳥獣被害等が増加している	1	2	3	4	
6) 山林、田畑の管理がままならなくなってきている	1	2	3	4	
7) 日用品・食料品の買い物ができる店が遠い	1	2	3	4	
8) 近くに働く場が無くなってきている	1	2	3	4	
9) 隣近所の付き合いが減ってきている	1	2	3	4	
10) 日常の移動手段がなくなってきている	1	2	3	4	
11) 土砂崩れ、崖崩れ等の発生の危険性が高い場所がある	1	2	3	4	
12) 災害時の避難活動が困難になってきている	1	2	3	4	
13) 災害により集落が孤立する	1	2	3	4	
14) 郵便局や農協が近くになく、預貯金の出し入れが困難	1	2	3	4	
15) その他(具体的に: _____)	1	2	3	4	

質問5 今後居住を継続する上で必要なものは何と考えられますか。
《それぞれの項目について、あてはまるものに○をしてください》
また、その中で最も重要であると思う項目に一つ○をして下さい。

	とても必要	必要	やや必要	不必要	最も重要な項目 一つに○
1) 集落内の相互扶助	1	2	3	4	
2) 周辺集落の協力	1	2	3	4	
3) 他出者(集落の外に出て行った家族や親族等)の協力	1	2	3	4	
4) 集落外の支援者(住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等)の協力	1	2	3	4	
5) 国や自治体の支援・協力	1	2	3	4	
6) その他(具体的に: _____)	1	2	3	4	

質問6 集落内もしくは近隣に、あまり人に知られてはいないが地域として誇るべき資源(風景、自然林、湧水、清流、寺社・ほこら等)がありましたら、お聞かせ下さい。(いくつでも)

資源名称	特徴
_____	_____
_____	_____

質問7 集落内もしくは近隣に、今後活用可能な資源(遊休地、耕作放棄地、空き家、廃校、管理されない共有林等)がありましたら、お聞かせ下さい。(いくつでも)

資源名称	特徴
_____	_____
_____	_____

2)『集落代表者等アンケート』の例

(3/3)

質問8 集落の山林に山菜など山の幸はありますか。もしくは海岸に海草・魚介類など海の幸はありますか。

《以下の選択肢から1つ選び、○をしてください》

また、食材（料理も含む）がある場合にはその内容を具体的にお聞かせ下さい。

- ① 販売可能なほどの食材がある
- ② 集落家庭内で食べるほどある
- ③ ない

①または②のいずれかを選ばれた方は下記（ ）内に食材の内容を記入下さい（いくつでも）

食材（料理）の内容

質問9 子孫に伝え、残したい伝統・文化や芸能、風習などはありましたら、お聞かせください。（いくつでも）

伝統・文化や芸能、風習の名称	特徴

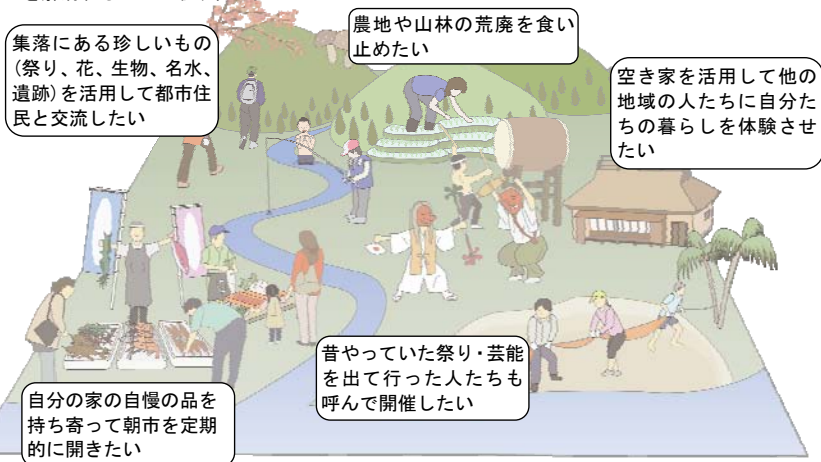
質問10 集落に居住する人たちの元気を呼び戻すための取り組みの状況、意向についてお聞かせ下さい。

《以下の選択肢から1つ選び、○をしてください》

- ① 既に取り組みを実施している
- ② 取り組みに向けて集落内の話し合いをしたい
- ③ 周辺集落と協力して取り組みたい
- ④ 他出者(集落の外に出て行った家族や親族)と協力して取り組みたい
- ⑤ 集落外の支援者(住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等)と協力して取り組みたい
- ⑥ 今のところ取り組む気はない

集落に居住する人たちの元気を呼び戻すための取り組みのイメージ

集落に居住する人が地域に賦存する資源を活かして、域外の人々と交流するなど、元気を呼び戻していくための取り組み。又は、域外との連携や支援も受けつつ、住み続けていく上での不安を解消するための取り組み



質問11 質問10で①～⑤を回答した人にお聞きします。現在取り組んでいる内容及び今後取り組みたいことをなるべく具体的にご記入ください。

「集落元気づくり寄合」(第1段階)の例

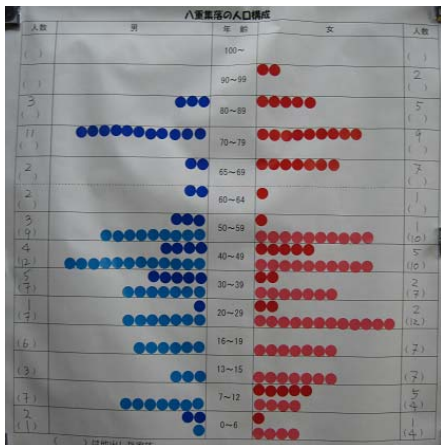
①グループ分けの例

○発言のしやすさに留意し、集落在住の役場職員の方の助言を得て、年代別にグループを分けた。



②人口ピラミッドの作成例

○後継者世代が他出、70代居住者が最も多い現状。



- ・〇〇集落人口は73名で、他出者を含めると186名になる。
- ・40歳代～50歳代の居住者が、昔、進学や就職で他出し、その結果、その子世代にあたる10歳代から20歳代が集落には少ない状況にある。
- ・60歳代は居住者と他出者共に少ないが、70歳代は多く居住している。

地区の人口構成図(他出者含む)

結果例

○昔を回顧するグループ、同じ年代での悩みなど、同年代でのグループ分けにより、話し合いのしやすい雰囲気生まれた。

【代表的な感想】

- ・今の〇〇地区の現状が改めて見え、新たな発見・再確認する事が多かったです。(30代女性)
- ・年代別に分かれて話し合う場はなかなか取れないので、話し合ってみて、皆さん色々な事を思っていることが分かり、楽しかったです。(40代女性)
- ・年代別に分かれてのグループで、若い人、高齢の人の見ている所がほぼ同じかなと思いました。(無記名)
- ・若い人の気付いている事が少し分かったような気がします。(60代女性)
- ・若い世代は知らない事を聞けて、興味・関心が高まった。(30代男性)

結果例

○高齢者が多いことはもちろんのこと、50代が抜けてしまっていることなど、集落の現実を視覚的に認識できた。

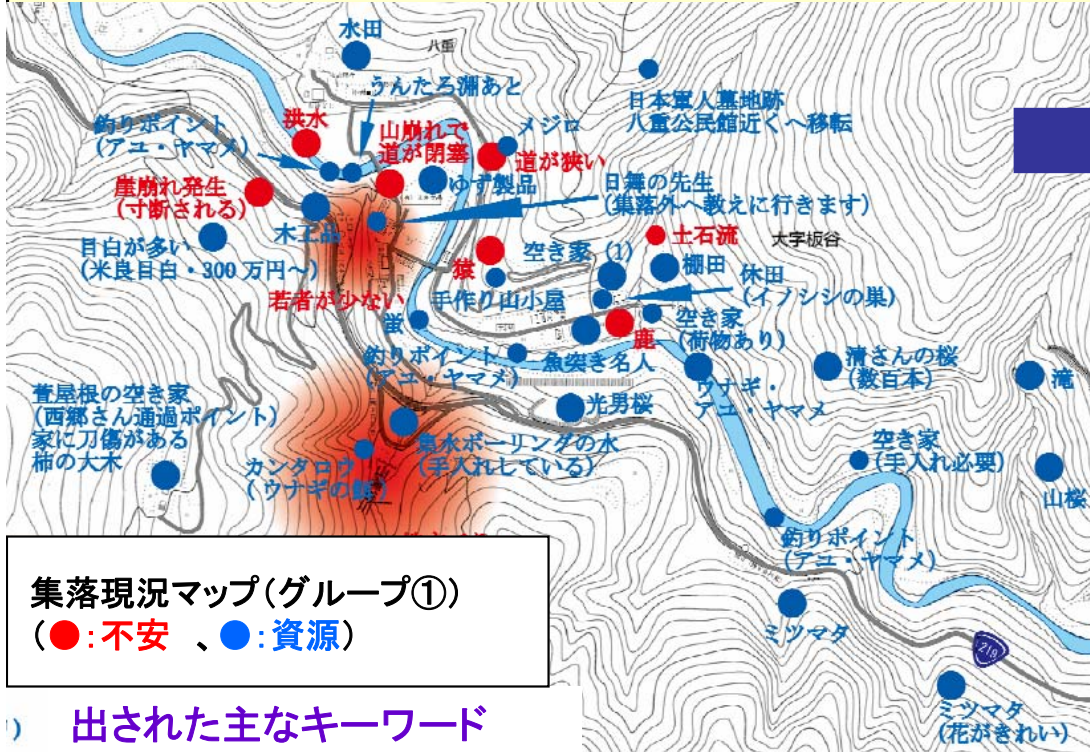
【代表的な感想】

- ・人口ピラミッドにより集落の事が分かった。(30代男性)
- ・子育て、仕事に多忙な30、40代にとって、子育てを終えて、集落活動のリーダー役となる50代がいなかったことがよく分かった。(40代男性)

「集落元気づくり寄合」(第1段階)の例

③ガリーバーマップ(不安と資源)の作成例

○住民と外部参加者の共同作業により、暮らしの不安と資源を地図に記載。



集落現況マップ(グループ①)
(●:不安、●:資源)

出された主なキーワード

不安

鹿・猿・イノシシによる獣害、山崩れ、土石流、落石、増水、小児科の遠さ、高校からの教育費負担

資源

ミツマタ、山菜、蜂蜜、寒蘭、ヤマメ、鮎、山桜、紅葉、藤の花、オオムラサキ、メジロ、大師堂、吐合地蔵、西郷隆盛伝説、豆漬け谷の湧水、星空、棚田、滝、猪肉、鹿刺し、鹿唐揚げ、鹿焼、味噌団子

結果例

○資源や不安の視覚化によって、分かりやすく、参加者が、その情報を共有することができた。

【代表的な感想】

・地図を使った事で、場所も分かりやすかった。(30代男性)

○高齢者グループからは、数は少ないが誰も知らない祭りの楽しかった記憶や清水の場所、若者グループは多くの資源が抽出された。

【代表的な感想】

・昔やっていたお祭りなどで話がはずんだ。(30代男性)

○不安はたくさん出されたが、資源は外部参加者との共同作業により、住民が気づかなかった資源が発見された。

【代表的な感想】

・うまく資源が引き出されることで、新たな発見があった。(40代男性)

○集落の事を改めて見つめ直すことにより、集落元気づくりへの糸口となる感想が得られた。

【代表的な感想】

・水害にあってから、地区活動が億劫になっていたもので、今日の時間は水害に遭う前の地区活動の楽しかった頃を思い出しました。ありがとうございました。(30代女性)

課題の例

○子供たちが高校生になると村外に出てしまい、教育費負担が重く、暮らしに精一杯といった切実な声が聞かれる等、子供の教育や医療、公共交通の不足への“対応や支援”を今後検討していくことが必要である。

「集落元気づくり寄合」(第2段階)の例

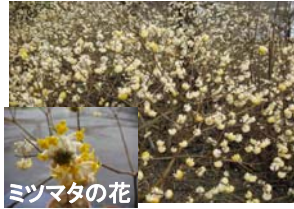
企画立案された4つのプロジェクト

「MADE IN そこらへん」

～ミツマタ・キヨシの花だらけ村～

○獣害が多い集落で、獣害を受けない作物を作っていた先人の知恵を参考に特産品を作る。

- ・ミツマタで新たな季節の彩りを加える
- ・ミツマタを使って、紙の生産を復活させる
- ・茶の実からとれる油を採取して商品化
- ・カヅラを使ったクリスマスリース作り
- ・草木染め



ミツマタの花
ミツマタを活用した
地域特産品開発

「夜桜まつり」

～先ず地元→村内→村外～

○台風災害から寄り合いが減り、集落のみんな
で楽しむことがなくなった。

- ・ミツマタで光男さくらに彩りを与える
- ・花見でバーベキューをしたい
- ・夜桜を楽しむためにライトアップ
- ・イベントスペースの確保



光男さくらを活かした
イベント開催

「災害に負けない○○地区」

～みんな進んでニコニコ避難清光さんと一緒～

○平成16年に台風が○○集落を襲い、甚大な被害をもたらした。その時、集落で一体的な行動がとれなかった。

- ・避難者リストの作成・更新
- ・消防団の定年延期
- ・食料備蓄
- ・避難時の声かけ、避難訓練の実施



集落の一体的避難行動

「我が家の猟師さんで昔の村を取り戻そう」

～シカ・サル・イノシシの撲滅～

○集落では鹿、猿、イノシシによる被害が多く、主に造林地や畑で起こっており、抜本的な解決策が無く困っている。

- ・住民の狩猟免許取得で鳥獣撲滅
- ・捕獲した食肉を資源化→特産品化
- ・その他の動物の活用



鹿に皮を食べられたヒノキ
猟師育成による獣害対策

結果例

○身近な資源の活用を皆で考えることで、新たな取組の実現性を語るができる。

【代表的な感想】「MADE IN そこらへん」

- ・ミツマタ栽培を、観光産業として本気で考えています。村民全体で考えて努力すれば、4～5年で完成する。(70代男性)
- ・1人で考えるより、皆で意見を出し合うと、色々つながって幅が広がるんだと思いました。普段会う地区の方達の新たな一面に気付かされる事があります。(30代女性)

○先ずは自分たちで楽しむこと、身の丈にあった提案がプロジェクトの実現可能性を高めるものとなる。

【代表的な感想】「夜桜まつり」

- ・まずは、あらゆるものを使って、地元で楽しむ事から始められるという事もあり、子育てで忙しい日々の今でも出来そうな気がしました。(30代女性)

○過去の災害をふりかえり、風化させないための取組を集落が一体となって行う。それが集落の結束力へとつながる。

【代表的な感想】「災害に負けない○○地区」

- ・○○で生活する上で、災害に負けない心が必要。災害にいつあってもいいように、家内でも話し合いをしたい。(30代女性)
- 1人の強い思いを引き出し、共感を呼ぶことで、集団の力へ展開する原動力が生まれる。

【代表的な感想】「我が家の猟師さんで昔の村を取り戻そう」

- ・どうしても被害を減らしたい。狩猟免許を取るぞ。(70代男性)

【代表的な感想】全体

- ・これなら出来るかなと、皆で取り組みそうだなと思った。(50代女性)
- ・お年寄りのやる気に驚かされた。負けていけない！と思いました。(40代女性)

「集落元気づくり寄合」(第3段階)の例

①四面会議を用いた取組への合意形成

○「誰が」「いつ」どの取組を行うのかの話し合い。



一体的な取組を目指すため集落活動単位(消防団、女性部、執行部)に分かれた全体討論

プロジェクト毎の取り組みを一つ一つチェック

②ここから始めます!!!

○自らの力で実施できる取組を優先(難易度による実行期間の分類)。



光男さくらの下に既に挿し木済み



今年から対岸でバーベキューをしよう

結果例

○集落内の既存の実行単位での議論としたことで、年配者の知恵・経験に圧倒されながらも、相互への期待も語られ、参加者のやる気を引き出すことにつながった。

【代表的な感想】

・今の私達に出来るのだろうか?という事を考えさせられました。何をするにも限界が有ったり、でも出来るゾ!というところまでの発見も有り、この三回の収穫は大きいです。(40代女性)

課題例

○自分たちではできない課題にぶつかった時、人的支援や助成制度などの支援策として助言できるアイデア(情報)の充実が必要である。

結果例

○先ずどこから手がけるのか、できるところからやろう、という気運が高まり、結果として、とにかく「集落の行事にしよう」という実行性の高い提案が出された。

【代表的な感想】

・地域の人たちの意識、気付き、見方などに少しでも変化が見られたようで良かった。これが全て良かったことにはならないかもしれないが、きっかけづくり的にはとても良かったと思う。又、総会前のこの時期というのが、より良かったと思う。(30代女性)

課題例

○“金にならなきゃ、やってる暇がない”というような意見もあり、資源活用への知恵や情報、助っ人が必要である。

「集落元気づくり寄合」後に配付した寄合新聞(便り)の例

「みんなで責任を持ってやろう」



最後に熱く所信表明する〇〇さん

集落元気づくり寄合に参加した私の感想

集落元気づくり寄合に参加された皆さんの感想を紹介いたします。
集落元気づくり寄合に参加して(代表的な感想)

- ・今の私達に出来るのだろうか?という事を考えさせられました。何をしても限界が有ったり、でも出来るゾ!というところまでの発見もあり、この三回の収穫は大きいです。
- ・若者から高齢の方までの会の中で、全ての人が内容を理解し、一つのことを全員で考える方法が素晴らしいと感じました。
- ・意外と難しい問題が山積みなのだと思った。
- ・前二回は、思いついた事や地区の方々の話を聞いたり面白かったのですが、今回の現実に実行となかなか難しい事が多いな、と思いました。現実はなかなか…です。
- ・地域の人たちの意識、気付き、見方などに少しでも変化が見られたようで良かった。これが全て良かったことにはならないかもしれないが、きっかけづくりにとはとても良かったと思う。又、総会前のこの時期というのが、より良かったと思う。
- ・生き甲斐を感じます。是非成功したいです。
- ・これからの△△集落を思うことができた。

〇〇大学 △△先生の講評

第1回集落元気づくり寄合に続き、〇〇大学の△△先生に第3回集落元気づくり寄合のアドバイザーとしてお越しいただきました。先生の講評です。

「本日はみなさんが積極的に話をされ、難しい問題もありましたが「とりあえずミツマタ」をキーワードにして、活動しようと思ったことは大変良かったと思います。たった3回の集落元気づくり寄合で、ここまで話が具体化するのではありません。今後は楽しみです。

今から活動を行うのは皆さんであり、誰かがチェックするからやるというモノではありません。

もし、声をかけていただければ応援にきて、一緒に楽しもうというスタッフの方もたくさんおられると思います。

今後も、皆さんが色々な人と関わり、みんなが楽しめ、それぞれが何か役割を持っていることを、ミツマタを機にして出発できれば、活動に広がりが出てくると思いますので皆さん協力して頑張ってください。」プロジェクトを実行する際は我々も呼んでいただけることを楽しみにしております。



集落元気づくり寄合終了後に講評される△△先生

《編集後記》

みなさま年度末のお忙しい中、集落元気づくり寄合への参加及び熱心な議論ありがとうございました。短い期間でしたが、皆様とお話しているうちに、私もスタッフも△△集落の良さなどが分かり、今後の集落問題を考えていく上で多くのことを学ばせていただきました。「ミツマタ」、「花見」、「集団避難訓練」、「獣害対策」への取組が、皆様の元気と不安解消へとつながることをスタッフ一同祈念いたします。イベント開催時は是非誘ってください。

〇〇村△△集落 集落元気づくり新聞

平成21年3月11日
第3号
発行:国土交通省九州地方整備局

第3回 集落元気づくり寄合開催される!

平成21年3月9日(月)に△△活性化センターで、第3回集落元気づくり寄合を開催しました。



あいにくの雨、でも会場は熱気に包まれていた

小雨が降る中、△△活性化センターには約30名の方が集まり、今回も熱心な議論がされました。いよいよ最後の寄合であり、集落元気づくりに向けた取組の実現に向けて、地区活動を行っている団体別(消防団、女性部、地区執行部他)に分かれて議論を行いました。自分たちが考えた4つのプロジェクトを何から始めるのか?既に実行され始めた取組や、なかなかやり手が見つからない取組まで、集落の未来を話し合う発言一つ一つには力がこもっていました。

今回のテーマは、集落元気づくりに向けた取組を「誰が」、「いつ」実行するのかを決めること!!!

第2回集落元気づくり寄合で出された4つのプロジェクトの実現に向け、各プロジェクトの取組に対する役割分担と実施時期、実施する上での課題について話し合いました。

第3回ワークショップの目的

前回で話し合われた4つのプロジェクトの実現に向け、「誰が」、「いつ」、「何を」行うのかを話し合い、特に今すぐ出来ることを決めることを目的としています。

4つのプロジェクト

《資源活用》

特産品づくり
イベント・祭おこし

《不安解消》

災害対策
鳥獣被害対策

提案された取組

「誰が」? 「いつ」?

(ミツマタ、茶の実等の活用)
(光男さくらの活用)

(食料備蓄、集団避難訓練等)
(猟師の育成等)

先行事例 - 1 「都市農村交流を都市NPOと協力して実施している事例」鹿児島県南さつま市金峰町大坂地区長谷集落

■ 集落の現況

- 鹿児島市に隣接する急峻な中山間地域に位置し、農地は棚田等の山地に点在、高齢化率が60%を超える。

■ 集落の課題

- 昭和中期まで錫の採掘・製錬で栄えたが、鉱山廃業と共に過疎化が進行し、集落の維持が困難となっている。

■ 活動経緯

数年前
地区ゆかりのA氏が
長谷集落の環境整備開始

■ 外部からの支援内容

- 町の補助で錫山遊歩道設置
- 集落住人の寄付により「ちごの滝」に水車設置



左: 中集落区長
右: 環境整備を始めたA氏



ちごの滝の横に
設置された水車

平成18年
NPOとの出会い、
そして支援開始

- NPO法人プロジェクト南からの潮流が支援開始
- 集落住民が気軽に集まれる交流館設置
- 「ちごの滝」展望所設置



ちごの滝村交流館



ちごの滝

平成20年
「新たな公」に採択

- 県道・国道の主要ポイントへ手作り道標設置中
- 都市住民との交流の中核であり、新産業となる登り窯建設中



作成中の道標



建設中の登り窯

■ 取組成果

- 環境整備が進むにつれ、見学ツアーの来訪やマスコミの取材が増え、高齢者が生き生きとしてきた
- 登り窯の活用により、独自の活動資金の捻出が見込める
- 「新たな公」事業を利用し、近隣3集落が連携した新しい取組を検討している

先行事例-2 「各地で取り組まれている様々な鳥獣被害対策事例」

■ 対策

休耕地への
大型家畜の放牧

■ 内容

林野地と接する休耕地を、牛などの放牧によって管理し侵入防止対策に利用するもの。

■ 獣害回避効果

- ① 除草による有害獣の隠れ場と侵入経路の除去
- ② クズなどの食物の除去
- ③ 家畜の世話等による人間活動の増加
- ④ 牧柵等の設置効果
- ⑤ 森林と農地の間での帯状設置が有効



山口県の棚田で放牧されている牛 * 1

作付転換

鳥獣の嫌う農作物に作付転換する

■ 作物転換による効果

- ① ゴボウ、タカノツメ、コンニャク、クワイ、ピーマン、サトイモ、ショウガ、シュンギク、ミント、バジルは、ニホンザルに対して被害を受けにくい農作物
- ② 水稻の在来種「シシクワズ」は、芒が長く、野生イノシシの防除技術の研究素材として利用できる可能性が高い(滋賀県農業総合センター・農業試験場・湖北分場の報告)



左:日本晴 右:シシクワズ * 2

捕獲し特産品化

害鳥獣を捕獲して食肉加工して販売

■ 害鳥獣を地域の特産品化

- ① 広島県倉橋町では、H15年に解体処理施設を開設し、同町出資の「(財)倉橋まちづくり公社」のレストランで多彩なイノシシ料理の提供と、売店でイノシシ精肉を販売
- ② 京都府福知山市三和町ではNPO法人が「イノシシ捕獲用の巨大な檻の共同オーナー」制度を1口2万円で開始。捕獲後に一口当り2キロ(精肉済み、スライス)を配布。



解体処理施設 * 3



パック詰めした精肉 * 3

* 1写真は山口県農林総合技術センタ作成の山口型放牧研究会より<http://yamaguchi.lin.go.jp/yamahou/yamahaou.htm>

* 2写真は近畿中国四国農業研究センターの研究成果よりhttp://wenarc.naro.affrc.go.jp/seika/seika_nendo/h18/02_kankyo/p105/index.html

* 3写真は中国四国農政局より<http://www.maff.go.jp/chushi/green/42genki/9-5.html>

集落モニタリングの概念

集落モニタリングの単位

集落は、曖昧な行政用語であり明確な定義がなく、自治体によってもその捉え方は様々である。しかし集落の単位は広くとりすぎると高齢化率等の指標は緩和されることが多い。

自治体において、小学校単位の統計しかない場合でも、町長目(大字)等のより小さな単位で統計データ(高齢化率、世帯数)をモニタリングしていくことが重要

※平成18年度に過疎地域に指定されている全国775市町村を対象に、総務省と国土交通省(国土計画局)が合同で集落の状況調査を実施している。しかし過疎地域のみを対象としていること、また集落の定義は自治体の判断に委ねるアンケート方式の調査であった等により、一部の県においては更に詳細な集落実態調査を独自で実施している事例も見られる。

対象集落の定義

高齢化率では、50%以上がひとつの目安となる。

世帯数では、20世帯未満がひとつの目安となる。

※本調査検討では「典型的な小規模・高齢化集落」を高齢化率30%以上かつ150世帯の集落と定義しているが、自治体の財政や人材等の状況に合わせ適宜、設定されるケースもある。

「集落元気づくり」の効果をモニタリングしていくことも重要となる。

ここで示している集落モニタリングは、ある一定の周期(例えば5年に1度)により、自治体において把握するものである。対象集落がある自治体は、対象集落へ集落づくりへの取組意欲を確認後、集落の取組状況等を1~3年間隔で把握し、施策効果を確認していく。

■ 集落のモニタリング概念

◆ モニタリング対象及び項目の例 ◆

① 対象集落の抽出

集落は自治体の最小行政単位とし、高齢化率、世帯規模等の客観的指標で抽出

対象集落がある自治体

② 対象集落の数

周期: 5年

Ⅲ-2 意欲無:
1~3年後に再確認

④ 取組意欲のある集落数

周期: 1~3年

取組意欲のある集落数の推移を把握

⑥ 取組を実施している集落数

周期: 1~3年

取組実施集落数の推移とその効果を把握

モニタリング項目

モニタリング周期

I. 自己診断票送付
(意欲等の確認)

対象集落

II. 自己診断票返信

③ 対象集落へ取組意欲等確認

取組意欲、寄合、外部交流、不安・資源、居住継続意志、取組の内容

Ⅲ-1. 意欲有: 取組評価票送付

⑤ 取組状況・効果等を確認

身近な資源活用・生活における不安解消に向けた取組状況や効果

IV. 取組評価票提出
(取組結果・効果を評価)

取組意欲

かつて集落は、冠婚葬祭をはじめ田役、道役等の社会的共同生活を実施する単位で形成されてきた。今後も集落の住民がそこで継続して生活するために重要な共同活動等の取組の意欲や実施状況等を確認していくことが重要

※集落モニタリングは、対象集落側からの自己診断を取り入れる考えが重要。本調査において実施した、集落代表者アンケートもこの考えによるものである。

地域のコミュニティが活性化し、集落の不安が解消し、元気をとりもどすことが重要

「集落元気づくり寄合い」の効果の確認報告例

H集落 (山間地) 密集型集落
31世帯73人
高齢化率50%超

◆ 集落住民と行政を併せ約50名規模の寄合いを3回開催

最後の寄合いにて企画立案された4つのプロジェクト

「MADE IN そこらへん」

～ミツマタ・キヨシの花だらけ村～

○ 獣害が多い集落で、獣害を受けない作物を作っていた先人の知恵を参考に特産品を作る。

- ・ミツマタで新たな季節の彩りを加える
- ・ミツマタを使って、紙の生産を復活させる
- ・茶の実からとれる油を採取して商品化
- ・カヅラを使ったクリスマスリース作り
- ・草木染め



ミツマタの花
ミツマタを活用した
地域特産品開発

(8ヶ月後)

(資源を活用した例)

- ・集落元気づくり寄合いにおいて精力的に発言されていた住民の方(キーパーソン)が、夫婦で集落内の道路に400本のミツマタを試験的に植樹。その後、桜並木周辺にミツマタを集落住民全体で植樹することを決定。
- ・村の補助制度を活用した茶の実油による地域特産品を開発することを集落の総意により決定。

「〇〇夜桜まつり」

～先ず地元→村内→村外～

○ 台風災害から寄り合いが減り、集落のみんなで楽しむことがなくなった。

- ・ミツマタで光男さくらに彩りを与える
- ・花見でバーベキューがしたい
- ・夜桜を楽しむためにライトアップ
- ・イベントスペースの確保



光男さくらを活かした
イベント開催

(8ヶ月後)

(集落内の地域コミュニティの活性化の例)

- ・集落の住民が集まって花見を見る習慣はなかったが、消防団が発電機とライトを用意し、集落住民が集まって花見兼バーベキューを開催した。
- ・集落内の自治会の役員を若返りさせた。

「災害に負けない〇〇地区」

～みんな進んでニコニコ避難清光さんと一緒～

○ 平成16年に台風が〇〇集落を襲い、甚大な被害をもたらした。その時、集落で一体的な行動がとれなかった。

- ・避難者リストの作成・更新
- ・消防団の定年延期
- ・食料備蓄
- ・避難時の声かけ、避難訓練の実施



集落の一体的避難行動

(8ヶ月後)

(周辺集落との共同の例)

- ・次年度より、年2回開催される消防団の訓練を、隣の集落と合同で開催するようになった。

○ 集落では鹿、猿、イノシシによる被害が多く、主に造林地や畑で起こっており、抜本的な解決策が無く困っている。

- ・住民の狩猟免許取得で鳥獣撲滅
- ・捕獲した食肉を資源化→特産品化
- ・その他の動物の活用



鹿に皮を食べられたヒノキ
猟師育成による獣害対策

(8ヶ月後)

(地域住民による不安解消への対応の例)

- ・集落内の住民がワナ免許を新たに取得

6)集落モニタリング

(3/3)

「集落元気づくり寄合い」の効果の確認報告例

①最後の集落元気づくり寄合3ヶ月後に区長へ取組へのきっかけがつかめているかを確認した例
※寄合いの効果は、現れるには時間を要する場合が多い。また小規模化・高齢化が進行した集落の場合は、他出者や周辺集落の方の参加を促すことにより、効果をあげることができる。

T集落 (山間地) 散居型集落
8世帯17人
高齢化率60%超

支援者との話合いのきっかけがつかめず

- ◆第1回寄合
住民6世帯7名
他出者1名
周辺集落1名
- ◆第2回寄合
住民6世帯7名
他出者0名
周辺集落1名

(3ヶ月後)



寄合いにて、新たな気づきもあり、取組意欲はわいた。しかしながら、今後、周辺集落の支援が必要であるが、話合いの場のきっかけがつかめていない。

特に椿の植栽に意欲的なK氏(区長)

提案された活動テーマ ①昔行っていた祭りの復活 ②無人販売所の活用と地域特産品づくり

結果(T集落)

○関係者(特に後継者世帯が暮らす隣の集落)が集まり、取組の方向性の確認、役割分担を話し合い、定期的な寄合い開催に向けたきっかけを作る必要がある。

【区長コメント】

- ・6年も集落単独で寄合いを開催していないため、今後いつできるかが、不明
- ・T集落単独でのプロジェクト実施は困難なため、支援必要
- ・もう一度お互いの役割を認識する寄合いを開催して欲しい

C集落 (離島) 密集型集落
8世帯15人
高齢化率70%超

周辺集落との連携に向けた話合い開始

- ◆第1回寄合
住民7世帯10名
他出者6名
周辺集落3名
- ◆第2回寄合
住民5世帯6名
他出者5名
周辺集落1名

(3ヶ月後)



他出者とは船こぎレースへの参加イベントで連携し、集落維持活動は周辺集落と交流を深めていく予定。集落の景観づくり(植栽)は他出者からも意見を聞きたい。

周辺集落との集落維持活動共催を考えるT氏(区長)

提案された活動テーマ ①イベントの復活(船こぎレース) ②他出者支援による集落維持活動

結果(C集落)

○3月の郷友会新年会に参加することや隣の集落とお互いの集落行事への参加を通じ、プロジェクトを推進していく。まずは、船こぎレースに参加出来るかどうか見守る。

【区長コメント】

- ・隣の集落とは寄合い開催後に協働的取組に関する話し合いを進めている。
- ・寄合いがきっかけとなり、今年3月の郷友会新年会には私も初めて参加する予定。

A集落 (離島) 密集型集落
8世帯11人
高齢化率80%超

郷友会(他出者の会)には参加予定

- ◆第1回寄合
住民6世帯7名
他出者3名
周辺集落0名
- ◆第2回寄合
住民4世帯5名
他出者3名
周辺集落0名

(3ヶ月後)



今回の寄合いを契機に集落(区長)と郷友会の連携が強化され、相談しやすくなった。

集会所の短期滞在利用を積極的に進めたいN氏(区長)

提案された活動テーマ ①海を活かした短期滞在プログラム ②集まりたくなる場所の整備

結果(A集落)

○3月の郷友会新年会へ参加し、プロジェクトの具体化を図り、住民・他出者の役割分担を明確にする。まずは集落河川の維持活動の協働開催に向け、準備が出来るかどうか見守る。

【区長コメント】

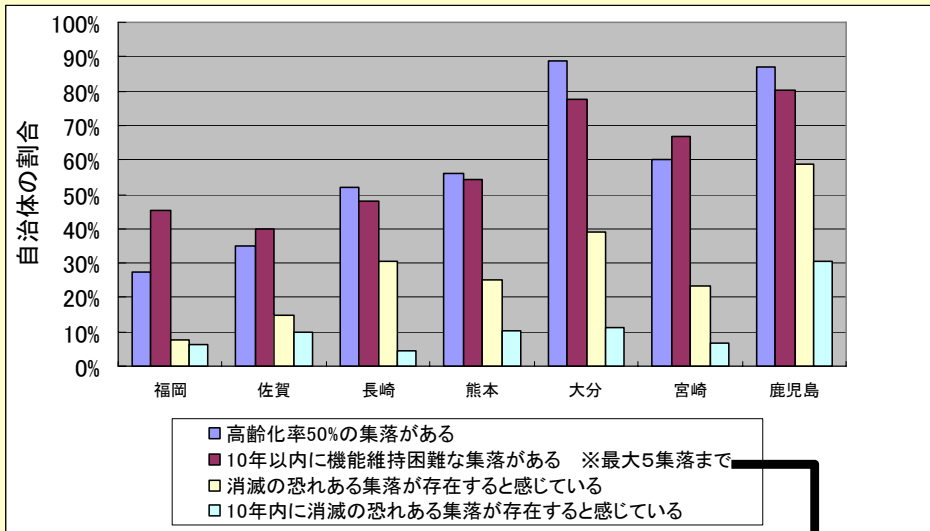
- ・せっかく今回の寄り合いで仲良くなった郷友会(他出団体)との連携を深めていきたい。
- ・3月に開催される郷友会の新年会に参加し、話を具体化させたい。

1. アンケート調査に基づく九州圏の集落状況

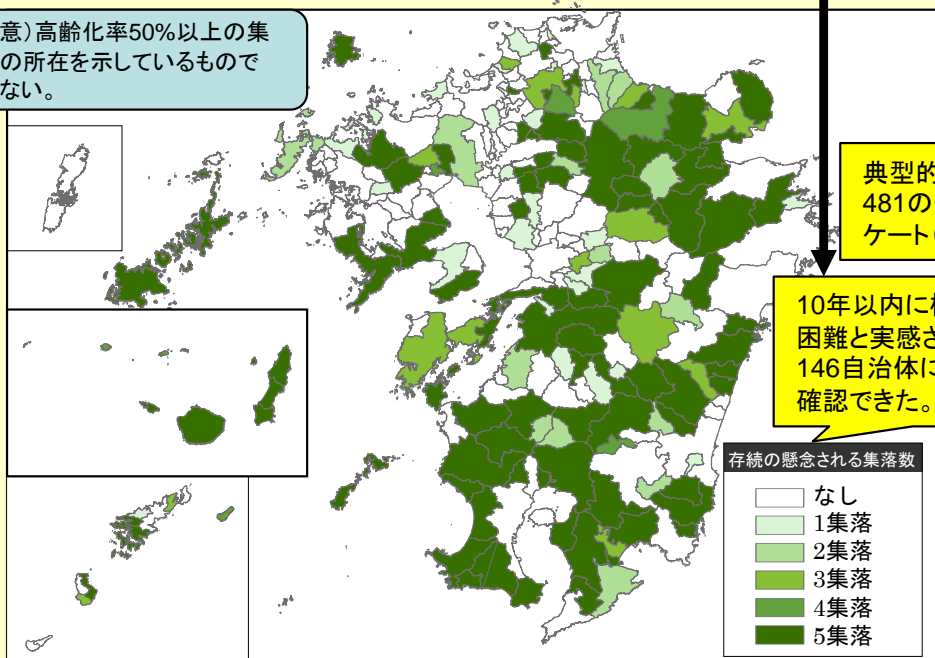
※市町村アンケートはH19年度に251市町村を対象に実施(回収率100%)

※集落代表者アンケートはH20年度に481集落を対象に実施(回収率69.2%)

■H19年アンケート調査に基づく九州圏の集落状況



注意) 高齢化率50%以上の集落の所在を示しているものではない。



存続の懸念される集落数

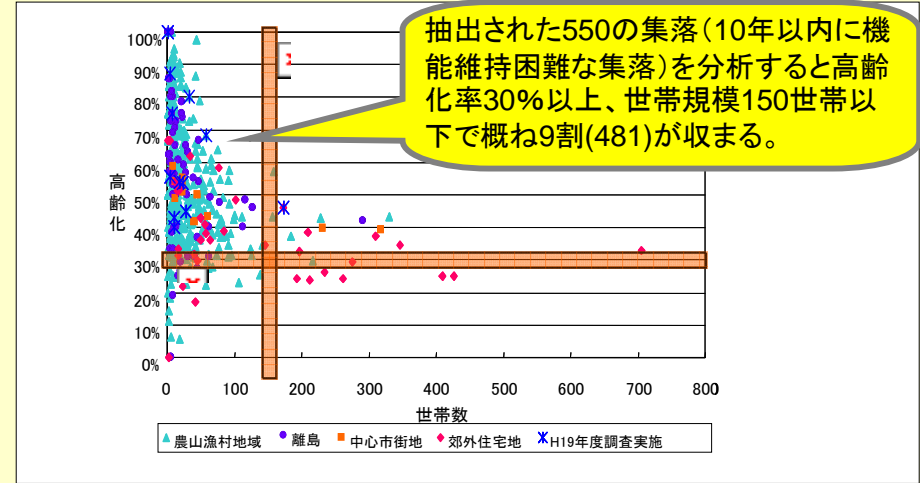
- なし
- 1集落
- 2集落
- 3集落
- 4集落
- 5集落

資料: H19年度自治体アンケート調査結果 ※九州圏の全自治体251 (H19現在)にアンケートを送付。各県にも協力していただいた結果、回収率100%を達成

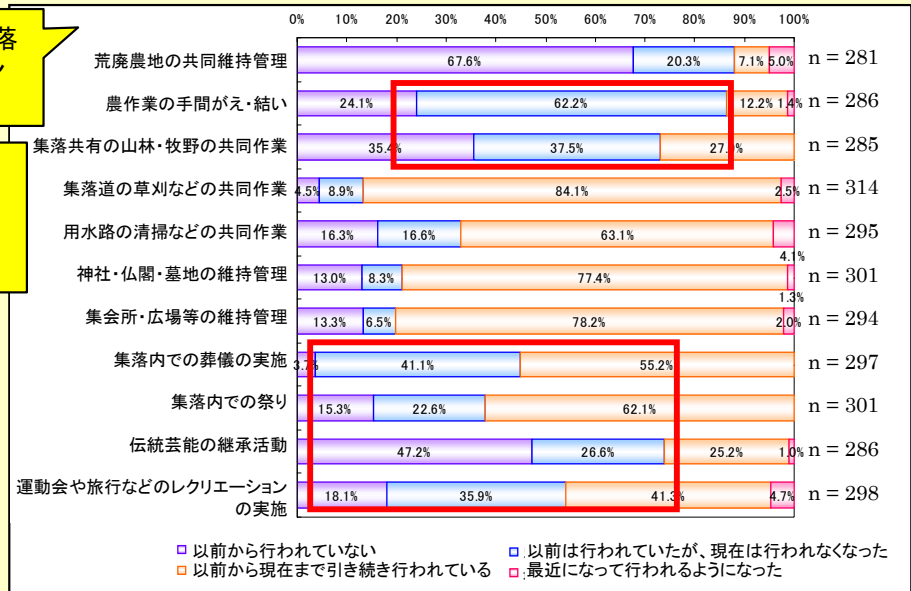
小規模・高齢化集落は、九州全域で多くみられた(市町村担当者回答に基づく)。 ※146自治体(146/251=58%) 550集落

■典型的な小規模高齢化集落に見る九州圏の集落状況

※平成19年度調査から、本調査の対象集落である「典型的な小規模高齢化集落(481集落)」に基づく集落の状況を整理した。



市町村が懸念する集落の概ね9割は高齢化率30%以上、世帯数150世帯未満であった。(H19市町村アンケート調査結果より)



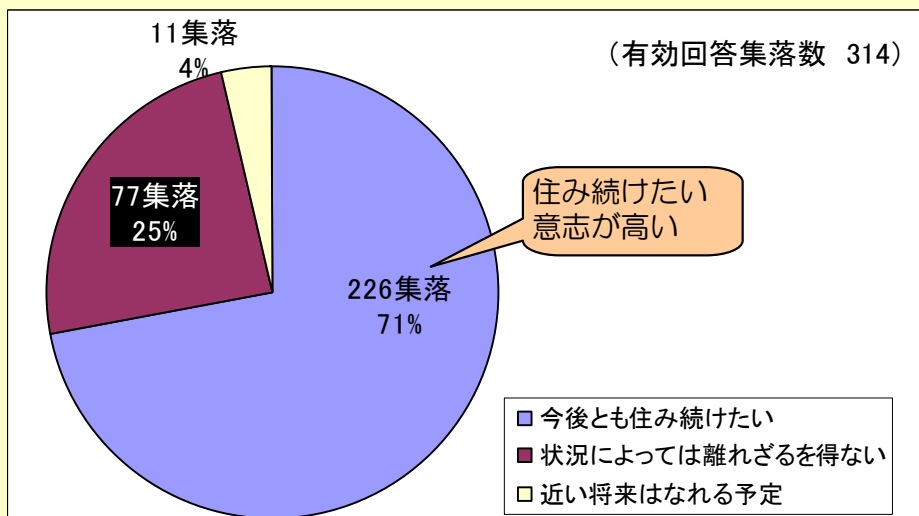
集落の取組活動は、農地共同管理や集落内行事等が行われなくなっており、今後の国土保全やコミュニティの維持が懸念される

集落の存続・維持を考える上で重要な「居住継続意志」は、「住み続けたい」と希望する集落が多い。

1. 小規模・高齢化集落における集落の居住継続意志

小規模・高齢化集落における集落の居住継続意志は、「今後とも住み続けたい」「状況によっては離れざるを得ない」「近い将来はなれる予定」の3項目でみると、以下の通りとなる。

小規模・高齢化集落における集落の居住継続意志



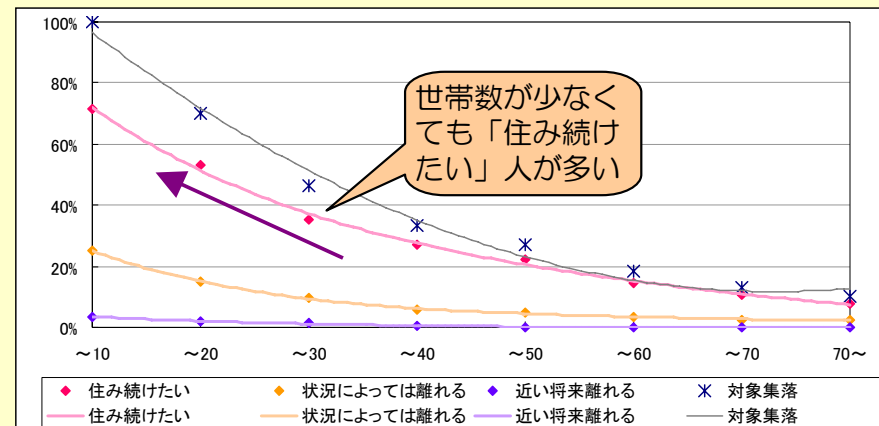
(平成20年度集落代表者アンケート調査結果より)

小規模・高齢化集落のほとんどは、「住み続けたい」と考えている。

2. 厳しい状況下における集落の居住継続意志

小規模・高齢化集落の集落の居住継続意志を「世帯別」「時間距離別」でみると、以下の通りとなる。

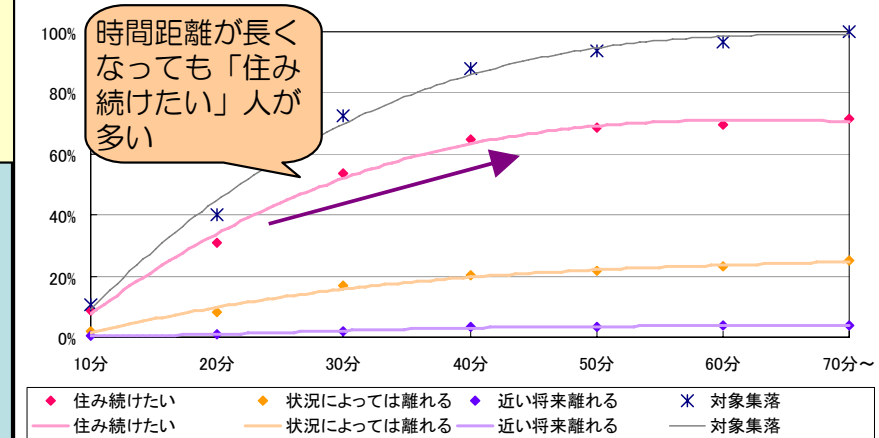
世帯規模別



生活中心都市からの時間距離別

【生活中心都市】
 ・高校がある。
 ・救急病院がある
 ・売場面積3万m2以上

例)
 壱岐市、人吉市、
 竹田市、西都市、
 阿久根市、奄美市



世帯規模が小さくても、また生活中心都市からの時間距離が長くても、「住み続けたい」の意志は多い。

7)HP等で確認できる各県独自の集落支援のとりくみ例

※全ての県のHPを確認しているわけではないが、小規模集落を多く抱える県において特定の集落へ直接的に支援する独自のとりくみ事例が増えてきている。下記の記述はHP文書を引用した。

◆(秋田県)

秋田はみんな元気ムラ県民運動(あきた元気ムラ応援団) <http://www.pref.akita.lg.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=1255775842615&SiteID=000000000000>

※集落からは、「農作業の人手が欲しい」、「水路の泥上げや草刈りが大変」、「集落の伝統行事をたくさんの人に見て欲しい」など、具体的に応援団と協働作業などをしてほしい・交流したい、などの要望があります。また、集落の元気づくりを応援したいと思っている民間企業やNPO法人などの団体もたくさんいます。ただ、何をどう応援できるのか、交流したいけれどどうすればいいかわからない、といった声も聞かれます。そこで、高齢化等集落対策協議会(県、市町村)では、集落の要望と応援団の要望のマッチングをお手伝いします！

「あきた元気ムラ応援隊」 <http://www.pref.akita.lg.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=1254277248479&SiteID=0>

※秋田県では、県職員が率先してこうした高齢化集落を訪問し、さまざまな支援を行うほか、外からの目線で地域の魅力を再発見する「あきた元気ムラ応援隊」を結成します。応援隊の活動の基本は、隊員ひとり一人が特技や趣味、意欲、こだわりなどを生かし、自分のできることを通じて集落の自立と活性化を応援するボランティア活動です。

◆(福井県)「ふるさと集落総合支援事業」

<http://www.pref.fukui.jp/doc/furusatoshinko/jichi/furusatoshuraku.html>

※平成20年10月に市・町および東京大学ジェロントロジー(総合長寿学)研究部門と共同で実施した集落調査で、特に声の多かった鳥獣害、交通、農業・生きがいづくりについて、21年度から支援を実施。公共交通機関が不便な集落に対して、県補助率を嵩上げし、バス等の待合所整備、試行運転、利用実態調査を支援する[カー・セーブ推進支援事業補助]、公共交通機関が不便な集落において相乗りを促進するため、乗せてもらいたい人と乗せてあげる人の連絡体制を整備する[愛の相乗り運動]、中山間地域などの集落で作られる農産物を集出荷し、直売所等で保存・販売する体制を整備する[「ふるさと畑」緊急総合サポート事業]等を実施

◆(岐阜県)過疎地域支援大学連携モデル事業(地域がんばり隊)

http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/chiiki-shinko/kaso/kasoshien_daigaku.html

※人口減少により集落機能の低下や農林業の担い手が不足している過疎地域を対象に、都市部などから過疎地域の支援等を行う人材(地域がんばり隊)を導入し、集落支援や農家等の手伝いなど実践活動をモデル的に行います。同時に地域がんばり隊の活動状況をみながら、支援のあり方、人材の育成、地域との関わり方、人材投入の効果等について調査・分析します。

◆(中国地方)島根県中山間地域センター

<http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

H7年中国地方知事会(5県共同)による中国地方中山間地域研究センター構想を基本にH10年に中山間地域を総合的、専門的に研究する全国初の研究機関として発足し、同年に設立した「中国地方中山間地域振興協議会」の事務局を担う。集落機能の維持、交通の確保、都市との交流の促進など中山間地集落が抱える課題については、社会科学の側面からの研究が必要であることから、新たに社会科学系の研究を行う地域研究部門を創設。中国地方知事会の共同研究機関として中国地方を対象とした広域的な研究にも取り組んでいる。

◆(愛媛県)

愛媛の元気な集落づくり支援総合ポータルサイト <http://www.pref.ehime.jp/h10800/shichoshinko/sougoupo-tarusaito/homepage-top.html>

元気な集落づくり応援団マッチング事業(H22～) <http://www.pref.ehime.jp/h10800/shichoshinko/sougoupo-tarusaito/maxtutingu.html>

※集落の共同作業等を対象とした人的支援(生活道の草刈り、水路の清掃、祭りなどの伝統行事の支援等)ボランティア活動として成立するものについて、危険を伴わない作業であれば広く対象とします。企業・NPO・大学・ボランティアグループ等2名以上の団体であれば申込みできます。活動実施のための条件ではありませんが、交流を深めることが目的なので、可能な範囲でおもてなし(交流会:軽い食事会等)をしていただくよう集落にお願いしてあります。当日は、安全にかつ本来の目的に沿った活動が円滑に行われるよう県職員・市町職員が立会います。

◆(大分県)

小規模集落対策本部 <http://www.pref.oita.jp/site/78/syokibo.html>

※小規模集落の維持・活性化に向け、県と市町村とが連携して取り組むことを目的に、知事を本部長、各市町村長等を構成員とする「大分県小規模集落対策本部」を設置。地域の実情に応じた対策が構じられるよう、県の各振興局単位に地域対策会議を設け、福祉や農林業、商業関係者、自治会関係者等もメンバーに加え、検討を進めています。

大分県くらしにぬくもり小規模集落応援事業 <http://www.pref.oita.jp/site/78/>

※大分県では、高齢化と過疎化による人手不足で、道路の補修や草刈り、公民館や集会所の掃除、お祭りなど集落の共同作業が困難になりつつあるため、平成21年度から、市町村と連携して、企業やNPO、ボランティア団体等の皆さんにグループ毎に登録していただき、集落の暮らしを守るために活動する「小規模集落応援隊」を募集します。

◆(宮崎県)

「いきいき集落」支援事業 <http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kenmin/chiiki/genki/index.html>

※「いきいき集落」支援事業は、元気な集落づくりなどの取組を始めるために必要な経費などを支援する事業です。

宮崎県「中山間盛り上げ隊」 <http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kenmin/chiiki/moriagetai/index.html>

※集落等が単独で行うことが困難となった各種共同作業などの活動を支援するとともに、これらの支援活動を通じて都市住民と中山間地域との人的交流を促進し、中山間地域の活性化を図る取り組みを実施。中山間地域の市町村及び集落等から要請のあった活動に対し、「中山間盛り上げ隊」(中山間地域の市町村や集落等が単独で実施することが困難となった各種活動をボランティアで支援する組織)の隊員の自主的な判断により参加支援を行う。県から委託を受けた団体は、中山間盛り上げ隊事務局として、隊員の募集及び登録、支援活動の募集及び隊員への活動内容の周知、隊員と集落等との連絡調整を行うほか、県や市町村と連携して集落等が隊員の支援を受けて行う各種作業の実施方法や交流活動に対して指導等を行う。

◆(鹿児島県)集落の維持・存続に対する政策推進モデル事業

<http://www.pref.kagoshima.jp/kurashi-kankyo/chiiki/syuuraku/seisakusuisinmoderu/syuurakumoderu.html>

※現在、人口減少や高齢化の著しい過疎地域等の集落では、冠婚葬祭等の日常生活における生活扶助機能や水田や山林等の地域資源の維持保全に係る集落機能等が低下し、住民の生活に支障を来すとともに、農地や山林の荒廃による県土保全上の問題も生じてきています。県では、これらの問題を解決していくため、平成21年度から「集落の維持・存続に対する政策推進モデル事業」に取り組んでいます。